基本理念

Health for All, All for Health

～すべての人に健康を、健康に全力を～

基本方針

一次・二次・三次予防の包括的な健康支援

生涯を通じた健康支援

受診者第一主義の健康支援

新たな予防医学システムの構築

教育研修機関としての使命と役割

センタービジョン

これからも地域社会から選ばれ続ける予防医学施設を目指す

概　要

1. 施設概要

(1) 名　　称　日本赤十字社熊本健康管理センター
(2) 所 在 地　熊本市東区長嶺南二丁目 1－1
(3) 開設年月日　昭和 53 年 4 月 1 日
(4) 許可病床数　19 床
(5) 敷 地 面 積　5,868.17 ㎡
(6) 建　　物

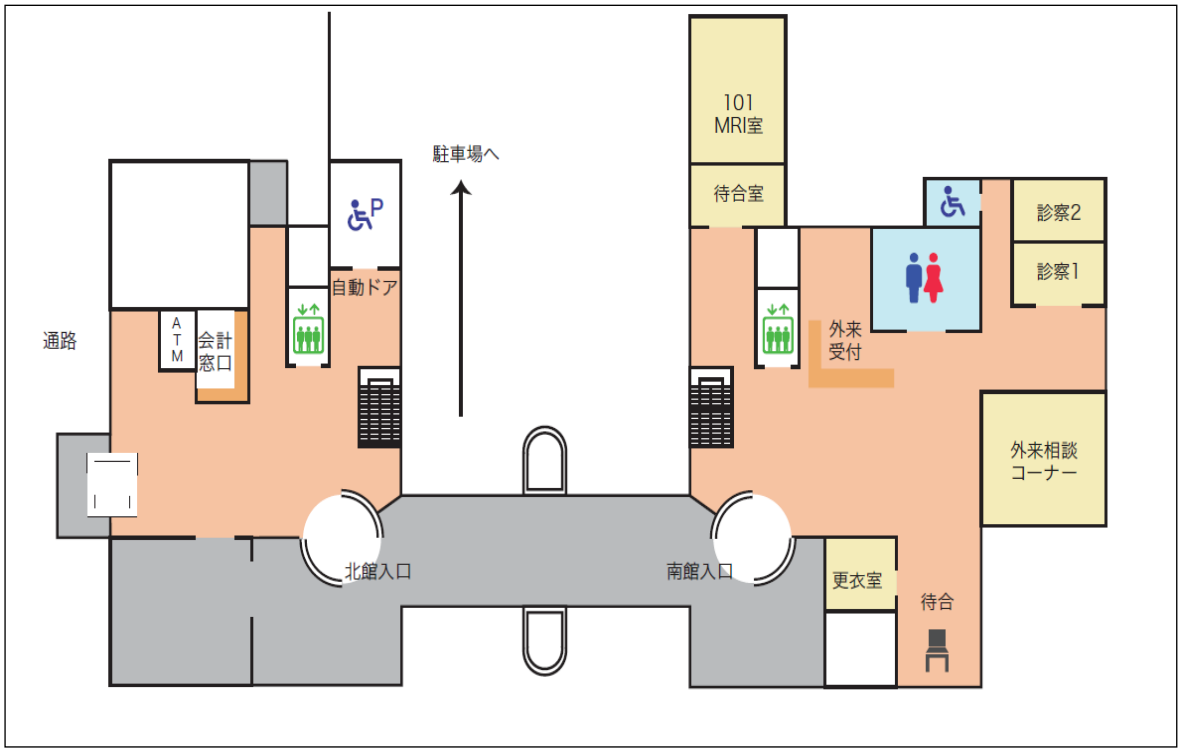
北館・南館及び管理棟	延床面積	10,626.94 ㎡
	竣工年月日	平成 9 年 5 月 31 日
東館	延床面積	1,827.85 ㎡
	竣工年月日	平成 17 年 3 月 31 日

2. 施設認定

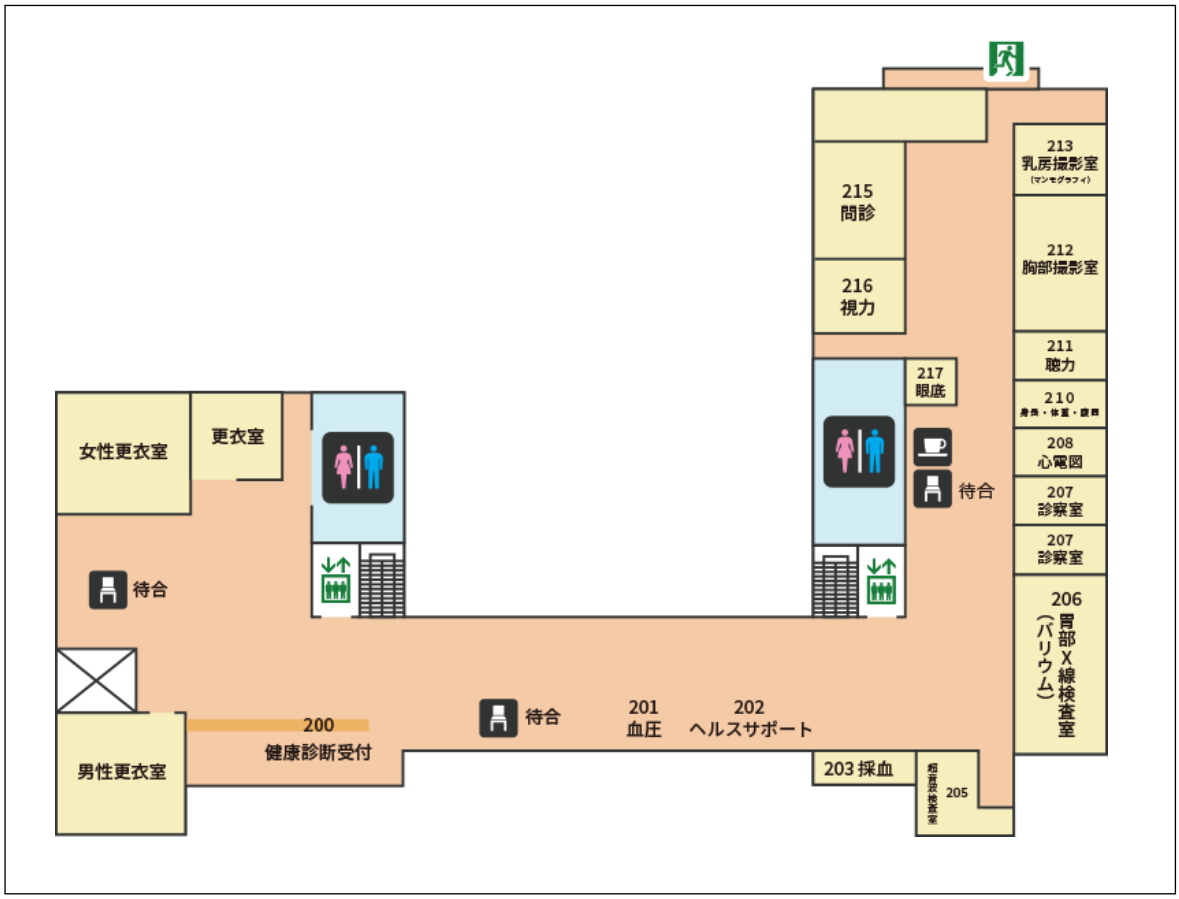
認定年月	認定機関	認定内容
平成 7 年 4 月	熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会	肺がん一次検診機関
平成 7 年 4 月	熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会	胃がん精密検査機関
平成 10 年 10 月	一般社団法人日本消化器がん検診学会	認定指導施設
平成 12 年 6 月	公益社団法人全国労働衛生団体連合会 労働衛生サービス機能評価委員会	労働衛生サービス機能評価認定施設 「健康診断」「産業保健支援」
平成 17 年 4 月	熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会	肝臓病認定医支援機関
平成 17 年 10 月	一般社団法人日本病院会 公益社団法人日本人間ドック学会	人間ドック・健診施設機能評価認定
平成 22 年 5 月	一般社団法人日本脳ドック学会	脳ドック施設
平成 24 年 4 月	公益社団法人日本産業衛生学会	日本産業衛生学会研修施設
平成 25 年 4 月	公益社団法人日本人間ドック学会 一般社団法人日本総合健診医学会	人間ドック健診専門医研修施設
平成 25 年 6 月	日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ検診施設画像認定
平成 28 年 4 月	公益社団法人日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価委員会	保健指導実施施設
令和 4 年 9 月	熊本県	熊本県 SDGs 登録事業者（第 3 期）

3. 配置図

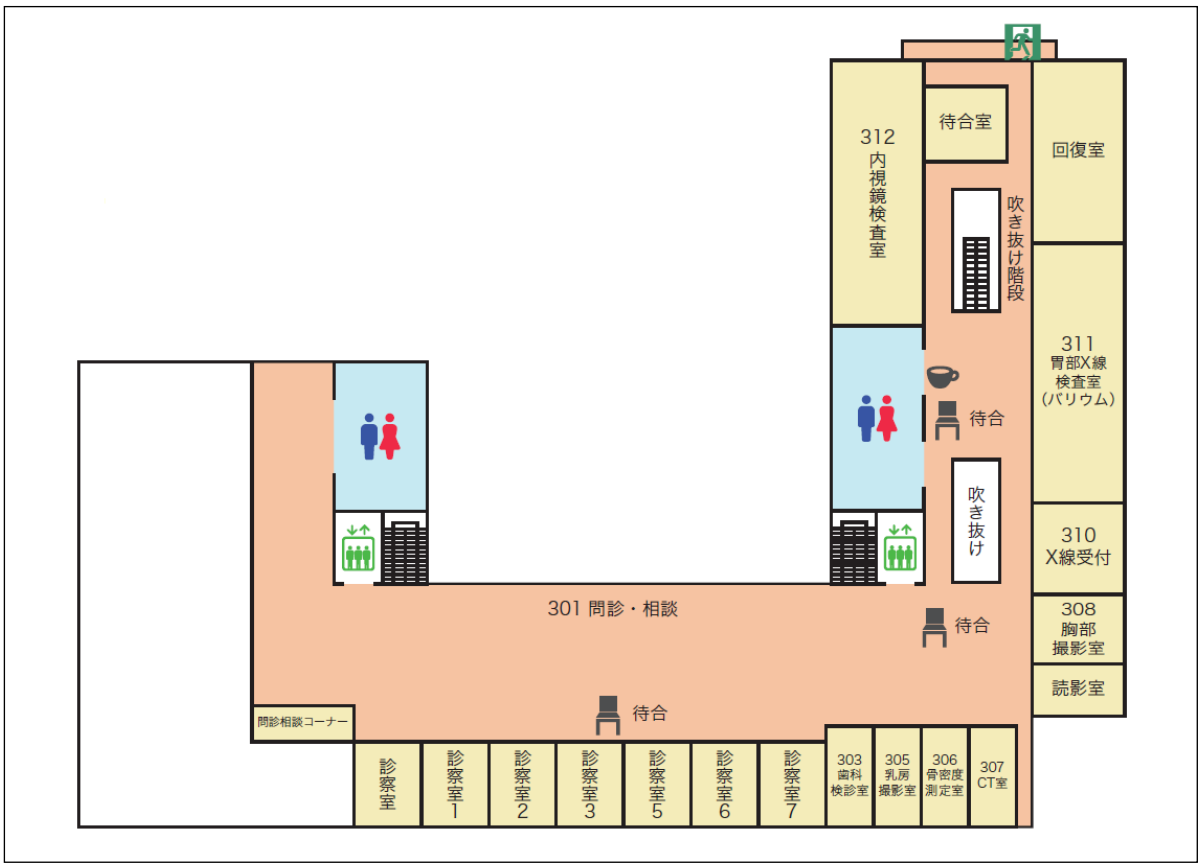
1 階


101
MRI室
駐車場へ
待合室
診察2
診察1
自動ドア
通路
A
T
M
会計
窓口
外来
受付
外来相談
コーナー
北館入口
南館入口
更衣室
待合

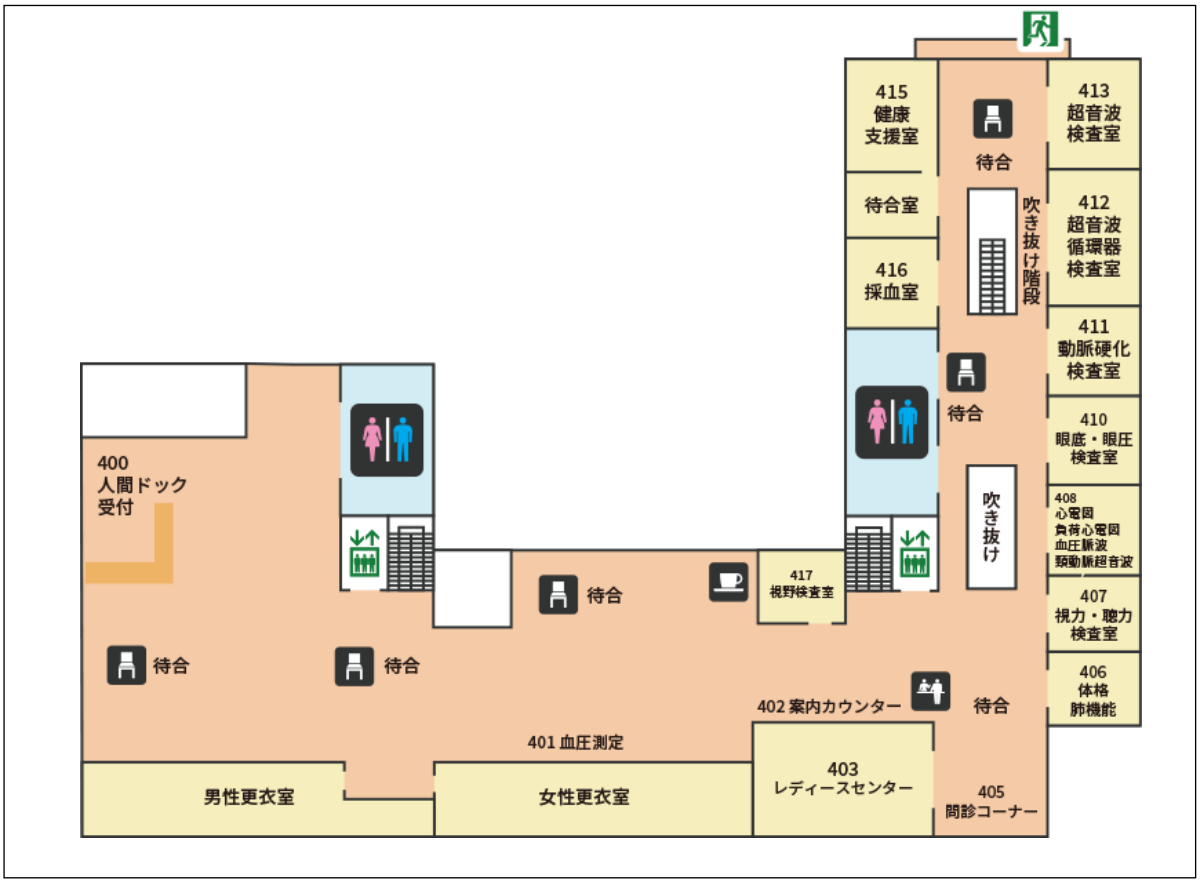
2 階


213
乳房撮影室
(マンモグラフィ)
215
問診
212
胸部撮影室
216
視力
211
聴力
217
眼底
210
身長・体重・腹囲
208
心電図
207
診察室
207
診察室
206
胃部X線検査室
(バリウム)
女性更衣室
更衣室
待合
待合
待合
200
健康診断受付
男性更衣室
201
血圧
202
ヘルスサポート
203 採血
205

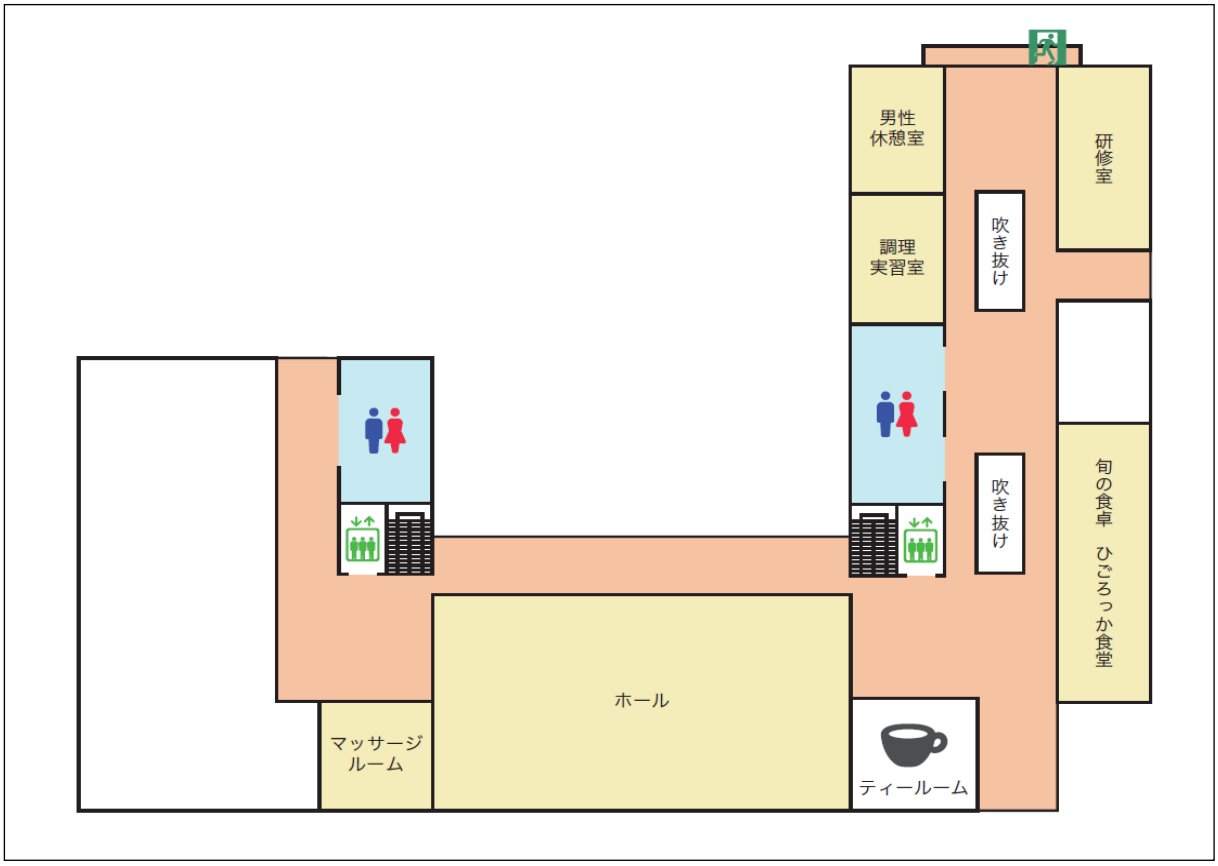
3 階


312
内視鏡検査室
待合室
回復室
吹き抜け階段
311
胃部X線
検査室
(バリウム)
待合
吹き抜け
310
X線受付
301 問診・相談
待合
308
胸部
撮影室
読影室
待合
問診相談コーナー
診察室
診察室1
診察室2
診察室3
診察室5
診察室6
診察室7
303
歯科
検診室
305
乳房
撮影室
306
骨密度
測定室
307
CT室

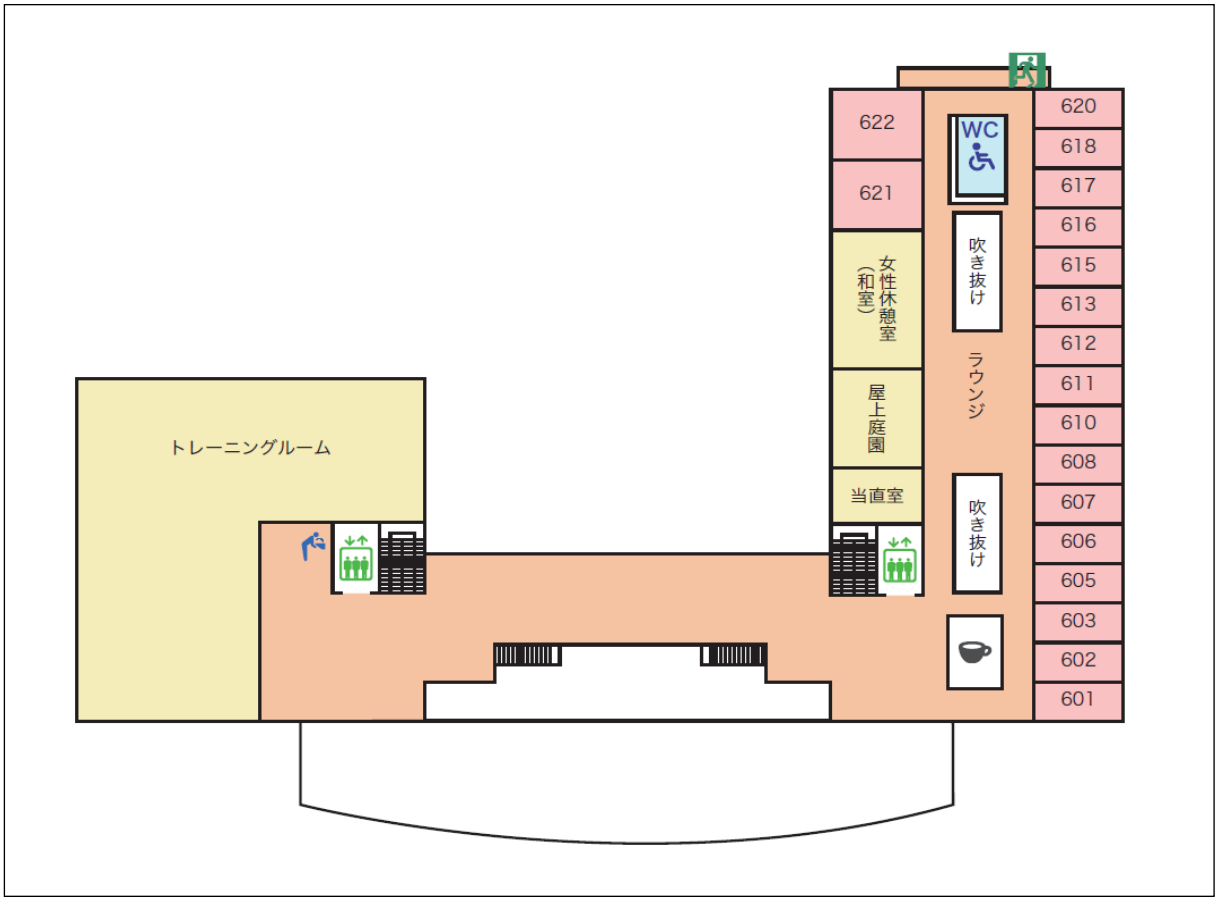
4 階


415
健康
支援室
待合
413
超音波
検査室
待合室
吹き抜け階段
412
超音波
循環器
検査室
416
採血室
411
動脈硬化
検査室
待合
410
眼底・眼圧
検査室
400
人間ドック
受付
吹き抜け
408
心電図
負荷心電図
血圧脈波
頸動脈超音波
待合
417
視野検査室
407
視力・聴力
検査室
待合
待合
406
体格
肺機能
402 案内カウンター
待合
401 血圧測定
403
レディースセンター
405
問診コーナー
男性更衣室
女性更衣室

5 階


男性
休憩室
調理
実習室
吹き抜け
研修室
吹き抜け
旬の食卓　ひごろっか食堂
ホール
マッサージ
ルーム
ティールーム

6 階


622
621
女性休憩室
（和室）
屋上庭園
当直室
WC
吹き抜け
ラウンジ
吹き抜け
620
618
617
616
615
613
612
611
610
608
607
606
605
603
602
601
トレーニングルーム

4.医療機器等

	機　　材	台数	機　　材	台数
医療機器	MRI 診断装置	1	超音波診断装置	15
	全身用コンピュータ断層（ヘリカル CT）撮影装置	1	上部消化管ビデオスコープ（胃カメラ）	25
	乳房 X 線撮影装置（マンモグラフィ）	2	下部消化管ビデオスコープ（大腸ファイバー）	16
	胃部 X 線撮影装置	6	骨 X 線測定装置	1
	胸部 X 線撮影装置	2		
	車　　種	台数	車　　種	台数
検診車	胃部 X 線検診車	3	マンモグラフィ検診車	1
	胸部 X 線検診車	3	子宮がん検診車	1
	超音波検診車	8	骨密度検診車	1

5. 沿革

昭和 53 年	4 月	日本赤十字社熊本県支部診療所健康管理センター開設
	6 月	名誉副総裁常陸宮妃殿下御臨席のもと落成式挙行
昭和 54 年	6 月	機関誌「ハイ健康です」創刊　以降、定期的に発行
	8 月	健康管理センター増改築起工式
	10 月	日赤記念体育館（運動療法センター）起工式
昭和 55 年	3 月	健康管理センター増改築・日赤記念体育館合同落成式
昭和 58 年	5 月	健康まつり（健康管理センター5 周年記念）開催
昭和 59 年	1 月	集団検診にコンピュータシステム導入
	3 月	腹部超音波を用いた集団検診開始
	12 月	健康管理センター第二次増改築工事竣工
昭和 60 年	1 月	健康管理センター別館の落成式挙行
昭和 61 年	11 月	人間ドックにコンピュータシステム導入
昭和 62 年	6 月	人間ドックの土・日コースを開始
昭和 63 年	5 月	日赤健康まつり（健康管理センター創立 10 周年記念式典）開催
平成元年	4 月	「滞在型セミナー」など健康増進活動開始
	5 月	日赤熊本県支部 100 周年記念において名誉副総裁高円宮妃殿下御来熊
平成 2 年	4 月	中央労働災害防止協会労働者健康保持増進サービス機関認定（令和 3 年末廃止）
	9 月	予防医学事業中央会「健康教育賞」受賞
平成 3 年	3 月	社会保険大会「優良事業所」受賞
平成 4 年	4 月	全国労働衛生団体連合会加盟
平成 5 年	5 月	「日本赤十字社熊本健康管理センター」に改称
	6 月	女性専門ドック（現レディースドック）開始
平成 6 年	2 月	社団法人日本病院会優良二日ドック施設認定
	4 月	財団法人産業医学振興財団職域健康診断実施機関指定機関認定
平成 7 年	4 月	中央労働災害防止協会健康診断機関名簿登録（令和 4 年度末終了）
		頭部 CT 検査、循環器・消化器コース新設
平成 8 年	4 月	健康管理センター新館起工式
		日本総合健診医学会優良総合健診施設認定
	8 月	第 37 回日本人間ドック学会開催熊本にて開催（事務局担当）

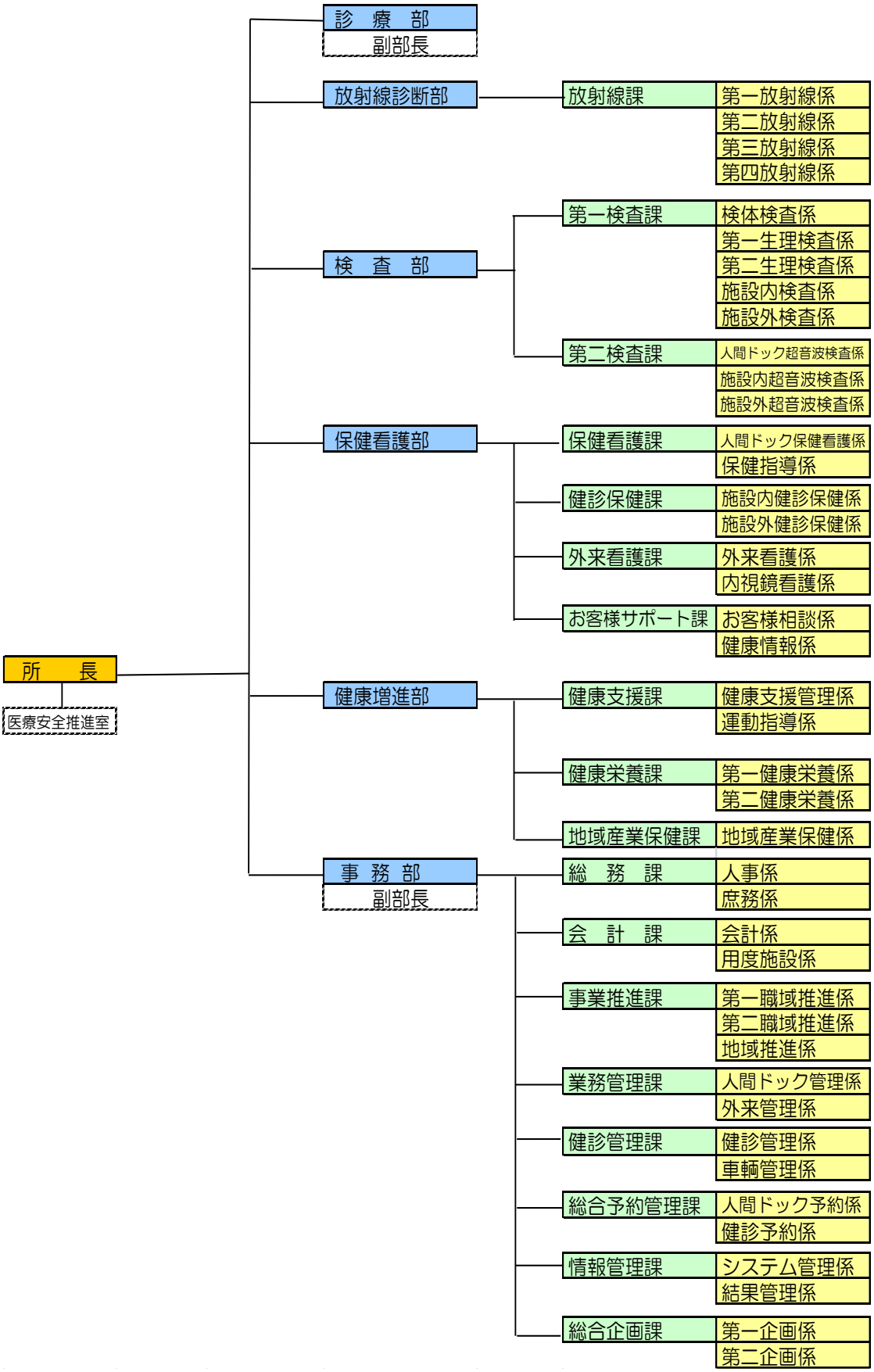
平成 9 年	6 月	健康管理センター新館竣工
		創立 20 周年記念「健康フェスティバル」開催（～8 月、4 回実施）
		歯科検診・頭部 MRI コースを開始
	8 月	健康外来を新設・別館（管理棟）改築工事完了
	9 月	健康だより「日赤健康かわら版」創刊、定期的に発行（平成 24 年度末終了）
	10 月	脳専門ドック開始
平成 10 年	1 月	創立 20 周年記念式典、新館落成式
	4 月	保険医療機関指定
	6 月	保険診療業務開始
	10 月	日本消化器集団検診学会指導施設認定
平成 11 年	11 月	第 9 回日本健康医学会熊本にて開催（事務局担当）
平成 12 年	6 月	全国労働衛生団体連合会労働衛生機関評価機構施設認定
	7 月	第 10 回九州農村医学会熊本にて開催（事務局担当）
平成 13 年	1 月	日本総合健診医学会第 29 回大会 熊本にて開催（事務局担当）
	4 月	胸部 CT 検診開始
平成 14 年	2 月	日本健康・栄養システム学会第 1 回九州地方会 熊本にて開催（事務局担当）
	10 月	保健文化賞受賞
		第 12 回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会熊本にて開催（事務局担当）
平成 15 年	3 月	創立 25 周年記念および保健文化賞受賞記念式典
平成 16 年	6 月	第 3 回日本健康・栄養システム学会 熊本にて開催（事務局担当）
	8 月	PET-CT 診断センター起工式
	9 月	防火対象物点検報告　特例認定（消防法第 8 条の 2 の 3 第 1 項）
平成 17 年	3 月	PET-CT 診断センター竣工
	4 月	(施設内)マンモグラフィ検診業務開始
	6 月	PET-CT 診断センター業務開始
	10 月	日本病院会・日本人間ドック学会 人間ドック・健診施設機能評価認定
平成 18 年	4 月	(施設外)マンモグラフィ検診業務開始
	9 月	アセテート PET 検査、メチオニン PET 検査研究開始
平成 19 年	4 月	院外処方開始
		受診者会員制度「優友クラブ」発足
	11 月	日経地域情報化大賞 2007「日経産業新聞賞」受賞

平成 20 年	8 月	創立 30 周年記念講演会開催
平成 21 年	4 月	日本人間ドック学会・人間ドック専門医制度委員会 人間ドック専門医制度研修施設認定
平成 22 年	5 月	一般社団法人日本脳ドック学会　脳ドック施設認定
	7 月	ペースメーカー外来開設（令和 2 度末終了）
	11 月	人間ドック宿泊室リニューアル
平成 23 年	1 月	ピロリ除菌外来開設
平成 24 年	4 月	社団法人日本産業衛生学会　研修施設認定
平成 25 年	2 月	九州予防医学研究会第 14 回学術大会：熊本にて開催（事務局担当）
平成 28 年	4 月	創立 35 周年記念　「日赤健康薬膳レシピ集」発刊
	4 月	熊本地震発生　5 日間業務停止　救援活動実施
	8 月	日本核医学会　PET サマーセミナーin 熊本　（大会長、事務局担当）
平成 29 年	3 月	PET-CT 診断センター　業務終了
	3 月	日赤健康薬膳「元気ごはん」発刊
平成 31 年	3 月	九州予防医学研究会第 20 回学術大会：熊本にて開催（事務局担当）
令和 2 年	7 月	熊本豪雨災害発生　救護活動実施
令和 3 年	4 月	健診・人間ドックにかかる基幹システム更新
令和 4 年	2 月	第 23 回九州沖縄健診施設研究会・第 6 回九州健診経営研究会 合同開催 会場：熊本（大会長、事務局担当）
	4 月	マイナンバーカードオンライン資格確認システム導入
	9 月	熊本県 SDGs 登録事業者（第 3 期）登録
令和 5 年	2 月	第 24 回九州沖縄健診施設研究会・第 7 回九州健診経営研究会 合同開催 会場：熊本（大会長、事務局担当）

6. 組 織

(1)組織図

6 部 18 課 42 係　令和 5 年 3 月 31 日現在



(2)課別課員数

令和５年３月 31 日現在

部	課	正職	嘱託	臨時	パート	計
診療部		12	1	13	0	26
放射線診断部	放射線課	16	3	0	11	30
検査部	第一検査課	22	18	0	1	41
	第二検査課	20	2	0	0	22
保健看護部	保健看護部長	1	0	0	0	1
	保健看護課	9	11	1	12	33
	健診保健課	8	8	0	4	20
	外来看護課	11	9	1	11	32
	お客様サポート課	9	1	0	1	11
健康増進部	健康支援課	3	4	0	0	7
	健康栄養課	5	7	0	14	26
	地域産業保健課	6	3	0	3	12
事務部	事務部長	1	0	0	0	1
	総務課	5	3	0	2	10
	会計課	5	3	0	0	8
	事業推進課	9	4	0	0	13
	業務管理課	4	9	0	3	16
	健診管理課	7	13	2	0	22
	総合予約管理課	5	14	0	1	20
	情報管理課	7	4	0	3	14
	総合企画課	3	1	0	0	4
合計		168	118	17	66	369

(3)年齢別職員構成

令和５年３月 31 日現在

職　種 年　齢	医師	医療技術職	保健師 看護師	事務職	その他	計
～19 歳	0	0	0	0	0	0
20～24 歳	0	2	0	2	1	5
25～29 歳	0	10	3	10	0	23
30～34 歳	0	5	12	13	0	30
35～39 歳	0	9	13	17	3	42
40～44 歳	2	11	10	21	1	45
45～49 歳	2	14	17	8	6	47
50～54 歳	4	20	14	19	10	67
55 歳～	18	31	18	19	24	110
合計	26	102	87	109	45	369
平均年齢(歳)	61	48	46	43	50	49

(4)役職員名簿

令和5年3月31日現在

所長	吉田　稔	名誉所長	小山　和作
		名誉所長	緒方　康博

【診療部】

診療部長	山本　恵三	診療部副部長	田中　俊一
			髙澤　英人
			窪田　健一
			家村　和千代

【放射線診断部】

放射線診断部長(兼)	山本　恵三

放射線課

放射線課長職務代理	大久保　秀	第一放射線係長	江藤　清隆
		第二放射線係長	右田　健治
		第三放射線係長	川上　博則
		第四放射線係長	杉浦　さや

【検査部】

検査部長	大竹　宏治

第一検査課

第一検査課長	北川　淳一	検体検査係長	小鷹　多美
		第一生理検査係長	町原　美希子
		第二生理検査係長	松永　由紀子
		施設内検査係長	古閑　満寿美
		施設外検査係長	清田　健一

第二検査課

第二検査課長	田中　信次	人間ドック超音波検査係長	阪本　美紀
		施設内超音波検査係長	竹本　京子
		施設外超音波検査係長	山口　勝利

【保健看護部】

保健看護部長	盛川　惠美子

保健看護課

保健看護課長	後藤　由美子	人間ドック保健看護係長	松下　宏美
		保健指導係長	川田　晶子

健診保健課

健診保健課長	江口　みかる	施設内健診保健係長	小原　ひふみ
		施設外健診保健係長	岩本　奈里

外来看護課

外来看護課長	潮谷　豊美	課長補佐	西澤　美奈子
		(兼)外来看護係長	
		内視鏡看護係長	福永　憲子

お客様サポート課

お客様サポート課長	石本　裕美	お客様相談係長	松本　貴子
		課長補佐	森元　栄子
		(兼)健康情報係長	

【健康増進部】

健康増進部長	野波　善郎

健康支援課

健康支援課長	作田　麻子	(兼)健康支援管理係長	作田　麻子
		運動指導係長	鶴田　祐一郎

健康栄養課

健康栄養課長	生山　由利子	第一健康栄養係長	吉川　美津代
		（兼）第二健康栄養係長	生山　由利子

地域産業保健課

地域産業保健課長	中野　裕美	地域産業保健係長	河野　富美香

【事務部】

事務部長	嶋田　真二	事務副部長	島田　雅美

総務課

総務課長	吉本　貴子	人事係長	草西　純子
		庶務係長	八田　晴生

会計課

会計課長	工藤　恭子	会計係長	黒木　豊
		用度施設係長	豊永　一秀

事業推進課

事業推進課長(兼)	島田　雅美	第一職域推進係長	若木　陽子
		第二職域推進係長	宮本　裕士
		地域推進係長	中河　美穂

業務管理課

業務管理課長	伊藤　紀代美	人間ドック管理係長	中野　政幸
		(兼)外来管理係長	伊藤　紀代美

健診管理課

健診管理課長	森下　浩之	健診管理係長	稲葉　修一郎
		(兼)車輌管理係長	

総合予約管理課

総合予約管理課長	東　敬之	人間ドック予約係長	菊池　由子
		健診予約係長	安藤　貴子

情報管理課

情報管理課長	西山　八代	システム管理係長	古賀　智美
		結果管理係長	中野　加恵子

総合企画課

総合企画課長	永田　成子	第一企画係長	下小川　聖子
		(兼)第二企画係長	永田　成子

⑸ 認定

①医師

令和５年３月 31 日現在

資格・認定内容	氏名
社会医学系指導医・専門医　【社会医学系専門医協会】	野波善郎　吉野俊美
日本産業衛生学会指導医　【日本産業衛生学会】	野波善郎　吉野俊美
労働衛生コンサルタント 【日本労働安全衛生コンサルタント会】	吉野俊美　宮川比佐子
認定産業医　【日本医師会】	野波善郎　窪田健一　家村和千代　吉野俊美 宮川比佐子　米川幸裕　成田和美　東憲孝 中原東　宮本佳奈　衛藤弘寿
人間ドック指導医　【日本人間ドック学会】	大竹宏治　窪田健一　宮本佳奈
人間ドック専門医　【日本人間ドック学会】	大竹宏治　窪田健一　宮本佳奈
人間ドック認定医　【日本人間ドック学会】	大竹宏治　窪田健一　家村和千代　緒方康博 宮本佳奈　衛藤弘寿　豊永政和
人間ドック健診情報管理指導士 【日本人間ドック学会】	家村和千代　衛藤弘寿
遺伝学的検査アドバイザー　【日本人間ドック学会】	窪田健一　家村和千代
総合内科専門医　【日本内科学会】	宮山祐美子 宮川比佐子 宮本佳奈 本田佳生
認定内科医　【日本内科学会】	吉田稔　宮山祐美子　宮川比佐子　川口哲 成田和美　東憲孝　中原東　宮本佳奈 本田佳生　明石隆吉
循環器専門医　【日本循環器学会】	本田佳生
消化器病専門医　【日本消化器病学会】	川口哲　成田和美　中原東
消化器内視鏡指導医　【日本消化器内視鏡学会】	川口哲　成田和美　中原東　明石隆吉
消化器内視鏡専門医　【日本消化器内視鏡学会】	川口哲　成田和美　中原東　明石隆吉
消化器がん検診指導医・総合認定医 【日本消化器がん検診学会】	川口哲
消化器がん検診認定医　【日本消化器がん検診学会】	（肝胆膵）大竹宏治　（胃）中原東
胃腸科認定医　【日本消化管学会】	宮山祐美子
呼吸器指導医・専門医　【日本呼吸器学会】	宮川比佐子　東憲孝
ｲﾝﾌｪｸｼｮﾝｺﾝﾄﾛｰﾙﾄﾞｸﾀｰ（日本呼吸器学会推薦） 【ICD 制度協議会】	宮川比佐子　東憲孝
結核・抗酸菌症認定医 【日本結核非結核性抗酸菌症学会】	宮川比佐子
肺がんＣＴ検診認定医師　【肺がんＣＴ検診認定機構】	東憲孝

資格・認定内容	氏名
放射線診断専門医　【日本医学放射線学会】	冨口静二
核医学専門医　【日本核医学会】	冨口静二
脳神経外科専門医　【日本脳神経外科学会】	山本恵三
産婦人科専門医　【日本産科婦人科学会】	家村和千代　西村弘
婦人科腫瘍専門医【日本婦人科腫瘍学会】	西村弘
細胞診専門医　【日本臨床細胞学会】	家村和千代
血液専門医　【日本血液学会】	宮本佳奈
超音波指導医(消化器)・専門医　【日本超音波医学会】	大竹宏治
プライマリ・ケア認定医【日本ﾌﾟﾗｲﾏﾘ･ｹｱ連合学会】	吉田稔
検診マンモグラフィ読影医師 【日本乳がん検診精度管理中央機構】	髙澤英人　家村和千代　吉野俊美　豊永政和
乳がん検診超音波検査実施判定医師 【日本乳がん検診精度管理中央機構】	家村和千代
乳腺認定医　【日本乳癌学会】	家村和千代
乳房疾患認定医　【日本産婦人科乳腺医学会】	家村和千代
がん治療認定医　【日本がん治療医認定医機構】	吉田稔　西村弘
がん薬物療法専門医　【日本臨床腫瘍学会】	吉田稔
日本アレルギー学会指導医(内科) 【日本アレルギー学会】	東憲孝
抗菌化学療法指導医　【日本化学療法学会】	宮川比佐子
がん検診認定医　【日本がん検診・診断学会】	家村和千代
健康スポーツ医　【日本医師会】	家村和千代
公認スポーツドクター　【日本スポーツ協会】	家村和千代
日本抗加齢医学会専門医【日本抗加齢医学会】	家村和千代
周産期認定　【日本産婦人科遺伝診療学会】	家村和千代
性教育認定講師【日本思春期学会】	家村和千代
ｹﾞﾉﾑﾒﾃﾞｨｶﾙﾘｻｰﾁｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ(ＧＭＲＣ) 【日本人類遺伝学会】	家村和千代
H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医 【日本ヘリコバクター学会】	家村和千代
初級呼吸ケア指導士【日本呼吸ｹｱ・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学会】	宮川比佐子

資格・認定内容	氏名
ＪＭＥＣＣインストラクター　【日本内科学会】	宮川比佐子
ＩＣＬＳインストラクター　【日本救急医学会】	宮川比佐子
ＣＫＤ（慢性腎臓病）対策推進「病診連携医」 【熊本市】	大竹宏治　窪田健一
肝臓病認定医 【熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会】	川口　哲
肺がん検診読影医師 【熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会】	宮川比佐子　東憲孝　冨口静二
肺がん一次判定読影医師 【熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会】	冨口静二

②医療技術者等

資格・認定	人数	資格・認定	人数
胃がん検診専門技師 【日本消化器がん検診学会】	7	超音波検査士　消化器 【日本超音波医学会】	33
胃Ｘ線検診読影補助認定技師 【日本消化器がん検診学会】	3	超音波検査士　体表 【日本超音波医学会】	30
胃がん X 線検診技術部門 B 資格検定 【日本消化器がん検診精度管理評価機構】	2	超音波検査士　泌尿器 【日本超音波医学会】	22
胃がん X 線検診読影部門 B 資格検定 【日本消化器がん検診精度管理評価機構】	4	超音波検査士　健診 【日本超音波医学会】	2
肺がん CT 検診認定技師 【肺がん CT 検診認定機構】	3	超音波検査士　循環器 【日本超音波医学会】	5
検診マンモグラフィ撮影技術及び精度管理認定技師 【日本乳がん検診精度管理中央機構】	7	人間ドック健診情報管理指導士 【日本人間ドック学会】	4
第 1 種放射線取扱主任者 【原子力規制委員会】	1	産業カウンセラー 【日本産業カウンセラー協会】	3
シニア放射線技師 【日本診療放射線技師会】	2	禁煙認定指導保健師・看護師 【日本禁煙学会】	6
医療画像情報 精度管理士 【日本診療放射線技師会】	3	消化器内視鏡技師 【日本消化器内視鏡学会】	3
放射線管理士 【日本診療放射線技師会】	2	がん登録実務初級者認定 【国立がん研究センター】	2
放射線機器管理士 【日本診療放射線技師会】	2	糖尿病療養指導士 【日本糖尿病療養指導士認定機構】	4
医療情報技師 【日本医療情報学会】	3	糖尿病教育ファシリテーター 【日本糖尿病協会】	2
細胞検査士 【日本臨床細胞学会】	5	認定糖尿病予防指導者 【日本歯科衛生士会】	1
国際細胞検査士 【国際細胞学会】	1	熊本県地域糖尿病療養指導士 【熊本地域糖尿病療養指導士認定委員会】	25
特定化学物質及び四ｱﾙｷﾙ鉛等作業主任者 技能講習修了【熊本県労働基準協会】	1	肝疾患コーディネーター 【熊本県】	33
認定心電検査技師 【日本臨床衛生検査技師会】	1	HAPPY プログラム使用権取得コース修了 【国立病院機構　肥前精神医療センター】	2
血管診療技師　【３学会厚生血管診療技師認定機構・日本血管外科学会・日本脈管学会・日本静脈学会】	2	健康運動指導士 【健康･体力づくり事業財団】	6
ジャパンハートクラブ認定トレーナー 【日本心臓リハビリテーション学会】	1	健康運動実践指導者 【健康･体力づくり事業財団】	2

資格・認定	人数	資格・認定	人数
健康経営アドバイザー 【東京商工会議所】	2	診療情報管理士　【日本病院会・全日本病院協会・日本医療法人協会・日本精神化病院協会・医療研修推進財団】	1
健康経営エキスパートアドバイザー 【東京商工会議所】	2	医療対話推進者養成研修修了 【日本赤十字社】	3
フットケアセラピストコース修了 【JRFA 日本リラクゼーションフットケア協会】	4	社会福祉士 【厚生労働省】	2
診療報酬請求事務能力認定(医科) 【日本医療保険事務協会】	1	第一種衛生管理者 【厚生労働省】	11
特定健診・特定保健指導実践者研修修了 【熊本県・協会けんぽ・栄養士会等】	58		

7. 行事・出来事

(1)年間行事・出来事

月　日	行　　事
4月1日	日赤熊本入社式 ・ 辞令交付式
4月1日	日赤熊本新規採用職員研修会
4月4日	新規採用職員研修会
12月23日	消防訓練
12月28日	仕事納め式（WEB配信・館内放送）
1月4日	仕事始め式（館内放送）
2月3日	令和4年度健診・保健事業担当者研修会（WEB配信）

(2)表彰

名　　称	受　賞　者
公益社団法人全国労働衛生団体連合会 「全衛連功績賞」	外来看護課 外来看護課長補佐(兼)外来看護係長 西澤　美奈子
公益社団法人全国労働衛生団体連合会 「全衛連奨励賞」	第一検査課 主任　黒川　朱子
	地域産業保健課 主任　山口　真由美
予防医学事業中央会 「奨励賞」	お客様サポート課 お客様相談係長　松本　貴子
	第二検査課 臨床検査技師　鶴田　和美

事　業

1.令和４年度健診等事業実績

事業分類			4月	5月	6月	7月
		総合コース	129	165	269	339
		シニアドック	112	128	0	0
	２日ドック合計		241	293	269	339
		標準コース	1,350	1,360	1,719	1,734
		消化器コース	167	188	271	253
		レディースコース	109	126	203	193
		付加健診	49	54	102	67
		シニアドック・ひまわりドック	158	173	0	0
	１日ドック合計		1,833	1,901	2,295	2,247
人間ドック事業			2,074	2,194	2,564	2,586
		協会けんぽ生活習慣病予防健診	850	1,251	1,627	1,575
		日赤生活習慣病健診	1,020	1,089	1,165	1,083
		定期健診	1,470	156	464	74
		住民健診	143	229	169	211
		その他健診	66	102	105	92
	施設内健診合計		3,549	2,827	3,530	3,035
		協会けんぽ生活習慣病予防健診	91	87	0	0
		日赤生活習慣病健診	1,962	2,472	3,250	4,614
		定期健診	291	34	61	51
		住民健診	3,132	3,513	4,198	2,628
		その他健診	1,694	752	384	278
	施設外健診合計		7,170	6,858	7,893	7,571
健診事業			10,719	9,685	11,423	10,606
		産業保健サポート	71	77	77	73
	産業医事業合計		71	77	77	73
		健康セミナー　（回数）	0	0	0	0
		職員派遣（講演他）　（回数）	0	0	2	3
		その他健康増進事業　（回数）	2	2	17	12
		継続型健康セミナー	0	0	0	0
		保健師派遣	0	2	11	12
	健康増進事業合計		2	4	30	27
		積極的支援	329	391	455	378
		動機づけ支援	302	357	410	366
	特定保健指導合計		631	748	865	744
健康支援事業			704	829	972	844
		保険診療	439	422	489	485
		自由診療	0	3	1	0
	外来診療合計		439	425	490	485
外来事業			439	425	490	485

（単位：人）

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
362	333	328	334	280	225	304	271	3,339
0	0	0	0	0	0	55	75	370
362	333	328	334	280	225	359	346	3,709
1,949	1,786	1,821	1,832	1,750	1,636	1,583	1,646	20,166
262	290	306	305	227	171	183	168	2,791
217	209	219	205	192	182	206	223	2,284
65	83	87	82	53	35	43	33	753
0	0	0	0	0	0	58	142	531
2,493	2,368	2,433	2,424	2,222	2,024	2,073	2,212	26,525
2,855	2,701	2,761	2,758	2,502	2,249	2,432	2,558	30,234
1,648	1,621	1,634	1,598	1,116	927	993	991	15,831
1,778	1,760	1,124	1,290	1,244	1,219	1,419	911	15,102
97	73	85	117	147	122	131	97	3,033
238	271	274	303	438	331	531	518	3,656
144	96	163	621	406	421	164	130	2,510
3,905	3,821	3,280	3,929	3,351	3,020	3,238	2,647	40,132
132	586	260	126	163	51	404	345	2,245
4,514	1,681	2,545	1,624	1,071	1,579	469	785	26,566
19	172	340	529	11	0	0	0	1,508
4,250	5,075	5,109	2,961	1,234	45	191	0	32,336
1,394	1,520	2,682	1,749	1,416	1,469	535	1,161	15,034
10,309	9,034	10,936	6,989	3,895	3,144	1,599	2,291	77,689
14,214	12,855	14,216	10,918	7,246	6,164	4,837	4,938	117,821
75	72	76	74	79	77	85	84	920
75	72	76	74	79	77	85	84	920
0	0	0	0	0	9	0	0	9
0	1	1	1	1	0	2	3	14
6	12	91	22	15	10	14	9	212
0	0	0	0	0	1	0	0	1
6	13	38	23	41	12	6	44	208
12	26	130	46	57	32	22	56	444
422	412	464	507	457	452	489	494	5,250
380	384	483	474	422	434	470	497	4,979
802	796	947	981	879	886	959	991	10,229
889	894	1,153	1,101	1,015	995	1,066	1,131	11,593
507	458	499	473	514	405	432	541	5,664
0	0	2	1	0	1	0	2	10
507	458	501	474	514	406	432	543	5,674
507	458	501	474	514	406	432	543	5,674

2. 人間ドック事業

＜概　要＞

総合的な健康診断として疾病の早期発見及び生活習慣病の予防・改善を目指すと共に、健康な方の更なる健康の維持・増進を目的とした標準コースに加え、消化器や婦人科を専門的に検査する各種コースを設定している。今年度からはオプションに膀胱超音波検査を新設し、膀胱腫瘤や膀胱がんなどを発見できるようになった。また『認知機能チェック（ＭＣＩ）』の名称を『あたまの健康（認知機能）チェック』へ変更し、受診者に検査内容を伝わりやすくした。その他、市町村住民健診として行っていた総合健康診査の廃止に伴い、１日ドック消化器コースで受け入れを行った。上記以外にも豊富なオプション検査で、より精度の高い検査を実施している。

また、受診当日に医師が検査結果の説明を行い、専門職（保健師・看護師・管理栄養士・運動指導士）による生活習慣改善のための健康支援サービスを併せて実施している。

令和４年度の人間ドック受診者数は 30,234 人であった。

(1)人間ドック

①1 日人間ドック

1）標準コース

日本人間ドック学会が定めた基準検査項目に、肝機能や膵機能検査などの重要な検査項目を追加して内容の充実を図っている。

2）消化器コース

１日ドック標準コースの検査項目に、大腸内視鏡(S 状結腸)検査や上部消化管内視鏡検査、胃がんに進行しやすいといわれる萎縮性胃炎の程度を調べるペプシノゲン検査と胃炎や胃潰瘍・十二指腸潰瘍の原因となるヘリコバクター・ピロリ検査など消化器系の検査を追加し、より充実した内容となっている。

3）レディースコース

１日ドック標準コースに加え、女性特有の疾患の検査（子宮頸部がん検査、HPV-DNA 検査、経膣超音波、乳房・甲状腺超音波、マンモグラフィ）を専門的に行うコースである。婦人科医をはじめとした専門スタッフを配置して疾病の早期発見と予防に努めている。

②2 日人間ドック

1）総合コース

１日人間ドックの標準コースの検査項目に大腸内視鏡（S 状結腸）検査、負荷心電図（エルゴメーター）や糖負荷試験のほか、口腔内検診、体力測定、視野検査を実施している。また個人のニーズに合ったオプション検査(全大腸内視鏡検査・頭部 MRI+MRA 検査・子宮頸部がん検査・乳房超音波・甲状腺超音波等)も選択ができ、今年度からは心臓超音波検査も追加し更に充実した内容を実施する総合的な人間ドックである。

(2)「優友クラブ」会員制度

平成 19 年度に発足した優友クラブは、市町村や健康保険組合などからの受診料金の助成を受けずに全額自己負担でご利用の方を対象とし、人間ドックを定期的に受診することにより、自己の健康状態の把握と健康維持増進を図っていただくことを目的としている。「優友クラブ」の名称には会員の健康管理に対して、当センターが優れた友でありたいという願いがこめられている。入会後は人間ドックを会員料金で利用できるほか、当センターが発行する健康情報誌などの提供を受けることができる。

会員数　1,570 人（令和 5 年 3 月末）

(3)シニアドック

お住まいの市町村やお勤め先の健康保険などからの補助等がない 63 歳以上の方を対象に、年齢に合った検査項目の人間ドックを受診しやすい料金で実施し、シニア層の健康づくりを支援している。

期　　間　　募集は令和 4 年 12 月～令和 5 年 3 月末、実施期間は令和 5 年 2 月～5 月末
内　　容　　1 日・2 日人間ドック
対 象 者　　63 歳以上の方

(4)赤十字ひまわりドック

赤十字の福祉事業の一環として、体の不自由な方を対象に受診しやすい料金を設定し、ご本人と付き添いの方がともに毎日を健康に過ごしていただくことを目的に実施している。

期　　間　　令和 5 年 2～3 月（月～金曜日）
内　　容　　1 日人間ドック
対 象 者　　身体障害者手帳（障害等級 1 級～4 級）、療育手帳をお持ちの方、およびその付き添いの方（ただし、市町村やお勤め先の健康保険、団体などからの補助を受けない方）

(5)けんこう応援ドック（単年度事業）

熊本地震後、復興途中の熊本県民の皆さんに人間ドックを受診しやすい料金で心身をチェックしていただき健康をサポートすることを目的に実施している。

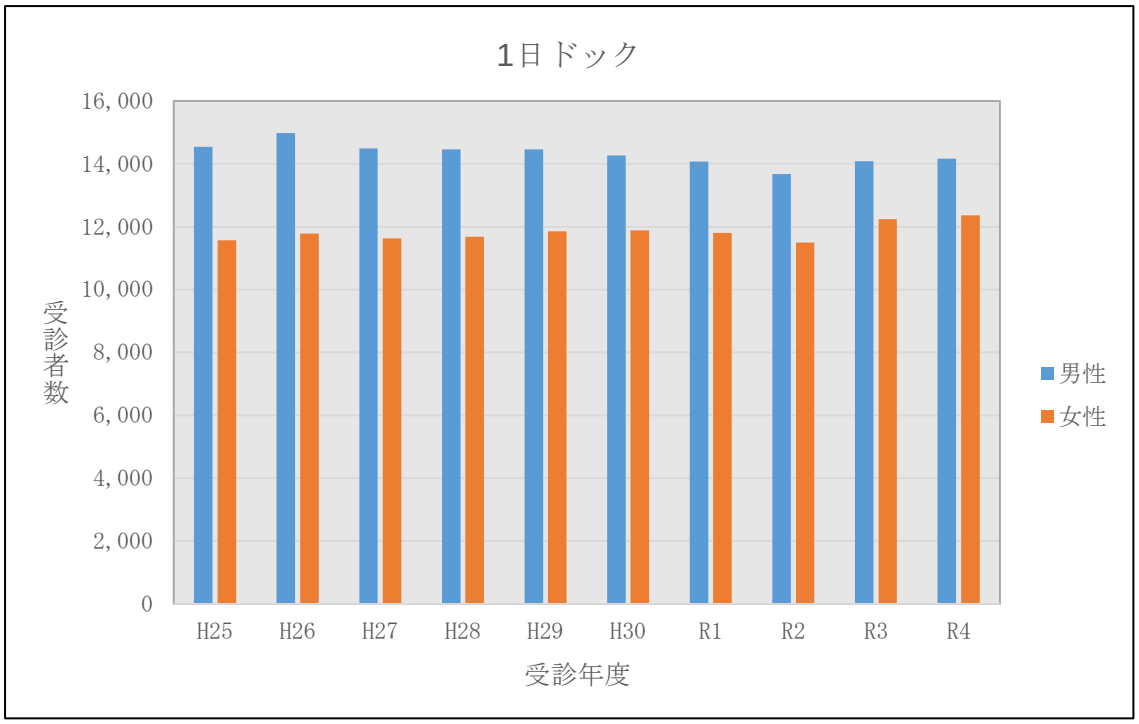
期　　間　　募集は令和 4 年 12 月 1 日～、実施期間は令和 5 年 2 月～3 月
内　　容　　1 日・2 日人間ドック
対 象 者　　熊本県内在住、または県内勤務で、どこからも人間ドック料金補助がない 62 歳以下の方
受診者数　　55 名

＜成　果＞

(1)ドック受診者数推移【性別】(過去 10 年間)

①1 日人間ドック

1 日人間ドック受診者数は、26,525 人（男性 14,162 人、女性 12,363 人)、前年比 195 人の増加であった。新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えからの回復傾向にあり、全体では過去 10 年において二番目に多い実績となった。

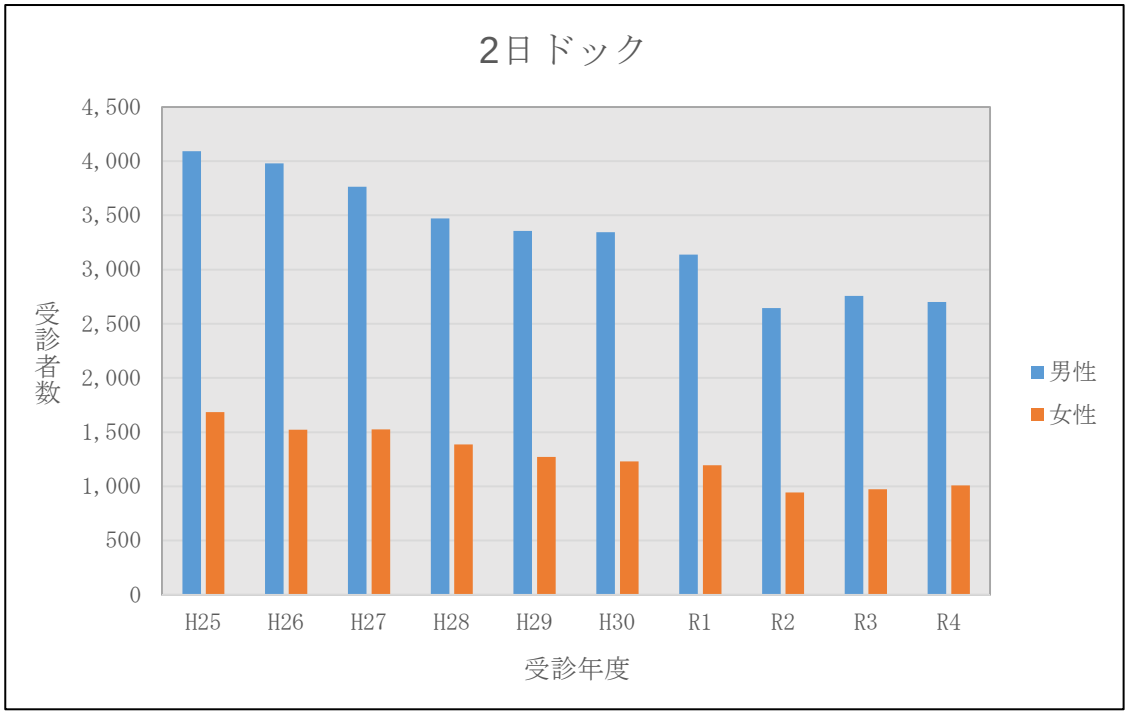


(人)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
男性	14,543	14,985	14,496	14,459	14,461	14,270	14,080	13,681	14,084	14,162
女性	11,572	11,779	11,626	11,678	11,857	11,884	11,803	11,493	12,246	12,363
合計	26,115	26,764	26,122	26,137	26,318	26,154	25,883	25,174	26,330	26,525

②2 日人間ドック

2 日人間ドック受診者は、3,709 人（男性 2,701 人、女性 1,008 人）、前年比 21 人の微減であった。ここ数年減少傾向が続いているが、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種の普及により、受診控えの傾向には歯止めがかかったものと思われる。



（人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
男性	4,092	3,980	3,764	3,471	3,356	3,344	3,139	2,646	2,757	2,701
女性	1,684	1,522	1,524	1,388	1,272	1,231	1,194	944	973	1,008
合計	5,776	5,502	5,288	4,859	4,628	4,575	4,333	3,590	3,730	3,709

(2)ドック受診者数内訳＜年齢別＞

①1 日人間ドック

（人）

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～
男性	58	1,396	3,683	4,369	3,208	1,266	182
女性	70	1,290	3,551	4,018	2,473	869	92
合計	128	2,686	7,234	8,387	5,681	2,135	274

②2 日人間ドック

（人）

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～
男性	8	146	539	739	670	500	99
女性	2	47	160	266	267	225	41
合計	10	193	699	1,005	937	725	140

(3)ドック受診者数内訳＜コース別＞

①1 日人間ドック

（人）

1 日人間ドック			
標準コース	消化器コース	レディースコース	付加健診
20,166	2,791	2,284	753
シニアドック	ひまわりドック		
513	18		

②2 日人間ドック

（人）

2 日人間ドック	
総合コース	シニアドック
3,339	370

(4)新規・再来受診者数＜個人・団体別＞

①1 日人間ドック

（人）

	新規		再来		計
個人	148	19.9%	596	80.1%	744
団体	3,466	13.4%	22,315	86.6%	25,781
合計	3,614	13.6%	22,911	86.4%	26,525

②2 日人間ドック

（人）

	新規		再来		計
個人	62	22.3%	216	77.7%	278
団体	514	15%	2,917	85%	3,431
合計	576	15.5%	3,133	84.5%	3,709

3. 健診事業

＜概　要＞

健診事業は、施設内健診と検診車輌で移動して実施する施設外健診に分けられる。

施設内健診では主として、協会けんぽ管掌健康保険加入者を対象とした一般健診、労働安全衛生法に基づく事業所健診、受診券を利用した特定健康診査などを行う。

施設外健診では、上記に加え、県内を中心とした地域へ出向く住民健診や学校検診などを実施した。

〈動　向〉

令和４年度は健診事業において新型コロナウイルス感染症対策の継続や令和３年度から実施している受付時間の細分化・ICT の導入などにより、快適な受診環境を整えている。

施設内健診においては、令和３年度より開始した ICT の一環として携帯電話のメッセージ機能を活用した日程通知に注意事項を記載した事で来所までの案内がより分かりやすく、来所後スムーズに検査へご案内できるようになった。また、新型コロナウイルス感染症予防対策として検討をしてきた受付時間の細分化は令和３年度に検証を重ね、令和４年度から時間当たりの人数を調整したことにより滞在時間の短縮や混雑の軽減となり受診者のみならず職員にも良い効果をもたらす結果となった。
また、多様性のある社会への対応に向けて令和 4 年 11 月より健診受診用として個室の更衣室を新たに新設し、運用を開始した。
施設外健診において、令和４年度は新型コロナウイルス感染症の影響は少なく実績・受診率共に回復傾向となった。ICT 導入の一環として令和３年度から一部の団体に web 予約の導入を行い、受付時間の細分化やインターバルをとる事でより効率的な受診環境を提供可能となり対応団体も増えている。
また、令和４年度より施設外でも施設内健診システムの遠隔操作による受付業務の試験運用を開始し更なる作業効率化の向上を目指している。

＜成　果＞

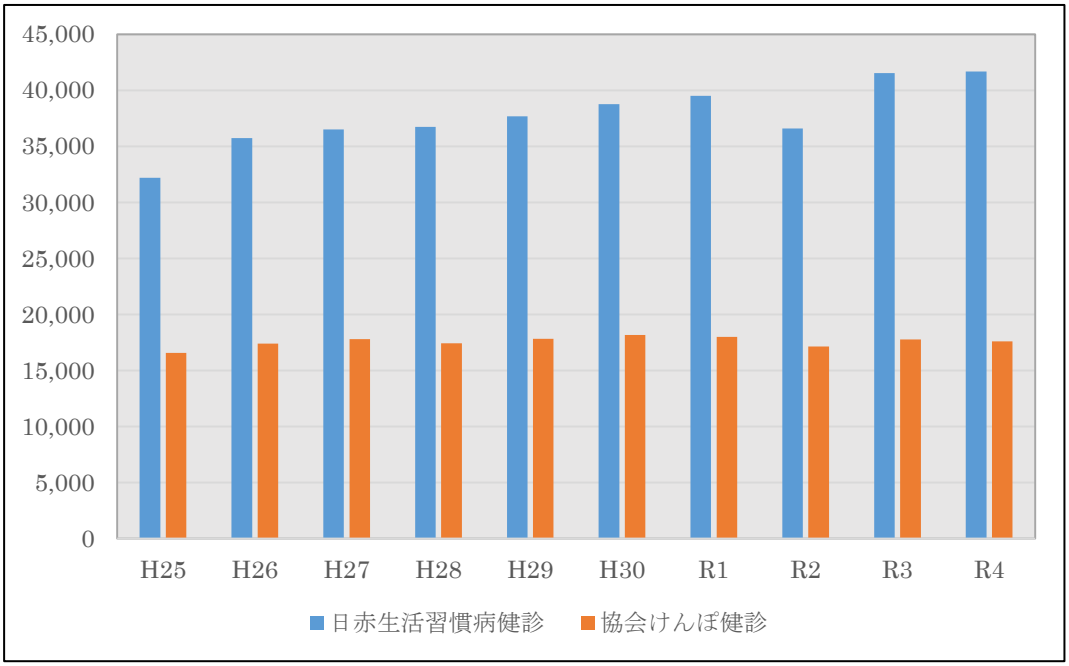
令和４年度の施設内健診は総計で 40,132 人を実施した。

住民健診では、主に熊本市の特定健診とがん検診を受入れている。事業所においては、協会けんぽ管掌健康保険生活習慣病予防健診（以下「協会けんぽ健診」という。）と生活習慣病健診などを受入れているが、とくに 35 歳未満の方の定期検診については、各事業所担当者と調整をはかり、その内容の充実に力を入れている。

施設外健診では、県下の地域、職域を巡回し、総計で延べ 77,689 人を実施した。

施設内健診同様、事業所については、35 歳未満の方の定期検診の内容充実に力を入れ、生活習慣病健診へと誘導を図った。

(1)健康診断受診者数推移(過去 10 年間)



	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
日赤生活習慣病健診	32, 185	35, 749	36, 505	36, 739	37, 683	38, 767	39, 512	36, 595	41, 538	41, 668
協会けんぽ健診	16, 564	17, 399	17, 815	17, 439	17, 826	18, 178	17, 991	17, 145	17, 781	17, 614

(2)施設内健診

①協会けんぽ健診

＜概　要＞

協会けんぽ管掌健康保険被保険者の生活習慣病早期発見及び健康管理に対する意識向上を図り、健康増進に役立てることを目的に実施している。

協会けんぽ健診の特徴としては、一般健診から付加健診（ドック)、乳がん・子宮頸がん検診、肝炎ウイルス検査であり、さらに全国健康保険協会の保健師による特定保健指導の個別相談や集団学習を無料で実施するなど総合的な健診である。また、協会けんぽ健診以外でも、検査項目が充実した日赤生活習慣病視力聴力健康診断を事業所健診として実施している。

協会けんぽ管掌健康保険加入者健診の実績数　　（人）

項目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
生活習慣病予防健診　　(施設内健診)	14, 852	15, 377	15, 370
〃　　(施設外健診)	2, 293	2, 404	2, 244
生活習慣病予防健診　　(人間ドック)	5, 473	5, 729	5, 921
付加健診	720	849	753
子宮頸がん検診（単独検診)	548	515	461

1)生活習慣病予防健診

35 歳以上 75 歳未満（当該年度 75 歳に達する方については誕生日の前日まで）の被保険者を対象とする。

2)付加健診

対象年度中に 40 歳・50 歳になる被保険者を対象とする。

40 歳とは、昭和 57 年 4 月 2 日～昭和 58 年 4 月 1 日に生まれた方

50 歳とは、昭和 47 年 4 月 2 日～昭和 48 年 4 月 1 日に生まれた方

3)乳がん･子宮頸がん検診

1)乳がん・子宮頸がん検診

一般健診を受診する方で当該年度において、40 歳以上の偶数年齢に達する女性被保険者を対象とする。

2)子宮頸がん検診（単独検診）

当該年度において、20 歳以上 40 歳未満の偶数年齢に達する女性被保険者を対象とする。

②労働安全衛生法に基づく事業所健診

協会けんぽ健診対象外の方について、労働安全衛生法で定められた項目に独自の検査項目を追加した日赤特定健康診断総合コース、日赤特定健康診断基本コース、日赤生活習慣病視力聴力健康診断を事業所健診として実施している。

③特定健康診査

＜概　要＞

平成 20 年 4 月から国の医療制度改革により、生活習慣病を改善し医療費適正化を図るためメタボリックシンドロームに着目した特定健康診査・特定保健指導が医療保険者に義務づけられた。当センターは人間ドック学会や全国労働衛生団体連合会等との集合契約に参加し、令和 4 年度は特定健康診査（集合契約）を 1,307 人実施した。

「メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）」に着目した保健指導の対象者となるかどうかを判断するための健診であり、40 歳から 74 歳までの公的医療保険加入者全員を対象としている。

＜特定健康診査項目＞

質問票	服薬歴や喫煙習慣など 22 項目
身体計測	身長・体重・BMI・腹囲測定
理学的診察	
血圧測定	
血液検査	脂質検査（中性脂肪・HDL-C・LDL-C） 血糖検査（空腹時血糖または HbA1c） 肝機能検査（γ-GTP・ALT(GPT)・AST(GOT)）
尿検査	尿糖・尿蛋白

＜詳細健診項目＞　医師の判断により実施する項目である。

貧血検査	赤血球数・血色素量・ヘマトクリット値
心電図検査	12 誘導心電図
眼底検査	キースワグナー分類
腎機能検査	血清クレアチニン、推算 GFR 値

④セレクト健診

お客様の多様化するニーズに対応するため、希望の項目のみを単項目で受診できるよう平成 26 年 11 月から実施している。令和 2 年度からは受診可能日を拡大し、より受診しやすい環境を整備した。

＜セレクト健診検査項目一覧＞

検　査　項　目	
頭部 MRI＋MRA	マンモグラフィ＋乳房超音波
胸部 CT	マンモグラフィ
甲状腺超音波＋血液	乳房超音波
腹部超音波	子宮頸部細胞診
内臓脂肪 CT	子宮頸部細胞診＋HPV
頚動脈超音波	経膣超音波
骨密度検査	

(3)施設外健診

①職域健診

職域健診は、職場で働く人が健康で生き生きと働けるように健康状態を継続的に把握し、健康を保持、増進させ生活習慣病を予防することが目的である。また、職場環境におけるメンタルヘルス対策、メタボ対策などの指導も義務づけられるようになった。

「高齢者の医療の確保に関する法律」により医療保険者に義務づけられている特定健康診査及び行政指導による特殊健康診断（作業健診）、情報機器（VDT）健康診断、更に事業所が独自で実施するがん検診（大腸がん、胃がん、乳がん、子宮頸がん、腹部超音波）を実施している。

全国労働衛生団体連合会が実施している「総合精度管理事業」にも積極的に参加し、労働衛生サービス機能評価も受け、精度の高い信頼できるデータ提供に努力している。

平成 27 年 12 月から施行のストレスチェック制度は、労働者のストレスの状況について定期的に検査を行い、自らのストレスの状況について気付きを促し、個人のメンタルヘルス不調のリスクを低減させるとともに、検査結果を集団的に分析し、職場環境の改善につなげる制度である。従業員 50 名以上の事業所に対し実施が義務づけられ、当センターにおいても、おもに 50 名以上の事業所を対象に 41 事業所実施した。

②地域健診

地域健診は、特定健康診査と熊本県後期高齢者医療広域連合条例に基づく後期高齢者健康診査を実施している。

がん検診等については、市町村に努力義務とされている「健康増進法」に基づき実施している。市町村によっては平成 21 年度からがん検診推進事業として子宮頸がん及び乳がん検診、更に平成 23 年度からは大腸がん検診の無料クーポン券が配付され、更なる受診率やがん発見率の向上に取り組んだ。

当センターも、特定健診とがん検診をできる限り同日に実施し、また、受診できなかった方を後日実施できるよう日程調整するなどの取り組みで受診率向上に努めている。

＜地域健診検査項目一覧＞

健　診　項　目
胃部 X 線
胸部 X 線
喀痰細胞診
便潜血検査（2 日法）
子宮頸部細胞診
乳房超音波
マンモグラフィ
腹部超音波
腫瘍マーカー（PSA）
甲状腺超音波
肝炎ウイルス検査（HBs 抗原・HCV 抗体）
歯周疾患検診
骨粗鬆症検診

③その他の検診

学校検診

＜概　要＞

一般財団法人熊本県健康管理協会の委託により学校検診を実施した。学校における健康診断は、学校保健法により結核の有無、心臓の疾患及び異常の有無を検査する。熊本県下の小学校１校、中学校３校、高等学校４校で行った。

＜実施状況＞

学校名	人数	
	心臓検査	胸部X線
文徳高校	377	377
文徳中学校	12	－
熊本中央高校	282	－
熊本学園大附属高校	406	－
熊本学園大附属中学校	83	－
熊本国府高校	478	－
熊大附属小学校	108	－
熊大附属中学校	160	－
計	1,906	377

＜心電図検査・胸部Ｘ線検査＞

実施方法

1）４月中旬から５月下旬までに各学校において一次検査（標準12誘導心電図）を実施

2）検査会場にて直ちに専門医のもとで一次スクリーニングを実施。必要者には心音聴診を行ったうえで精密検査者を決定

3）胸部Ｘ線検査撮影（文徳高校のみ）

4）精密検査は、当センター外来で実施

5）精密検査終了後、結果と管理区分表を学校へ送付

4. 健康支援事業

＜概　要＞

包括的な健康支援を目的とし、「健康づくりサイクル」見（診）る（人間ドック・健康診断）→知る（再検査・精密検査）→気づく（保健相談）→変わる（生活改善）を様々な角度からサポートしている。また、保健師・管理栄養士・運動指導士による特定保健指導を中心とした保健指導事業の他、産業保健サポートサービス、健康セミナー等のプログラムの企画・実施、さらに、テレビ・新聞等マスメディアにも対応し、広報活動も行っている。他にもホームページ上にて、運動実技やヘルシーレシピ紹介等のWeb配信も行っている。

(1)特定保健指導

高齢者の医療の確保に関する法律により、医療保険者に対して義務づけられた「特定健康診査・特定保健指導」の委託を受け、厚生労働省の「標準的な健診・保健指導プログラム」に基づき支援を行っている。

＜プログラム＞

① 動機づけ支援

初回面談時に健診結果を用いながら現在の健康状態を確認し、今後の生活習慣病のリスクや食事・運動などの生活改善のポイントのアドバイスを行い、具体的な行動目標を設定する。3 ヵ月後に取り組みの成果（体格の変化・生活習慣改善状況）について、電話等で確認し支援を行っている。

② 積極的支援

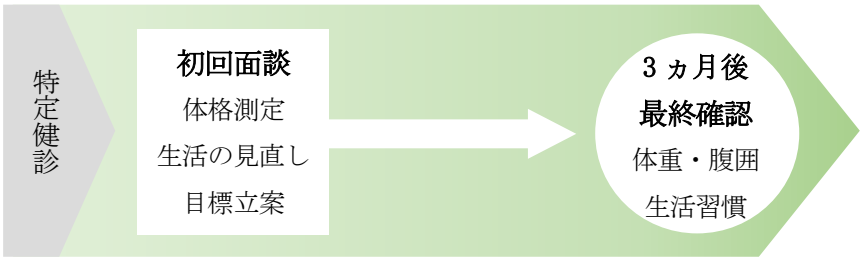
動機付け支援同様、初回面談時に行動目標を設定し、体重の変動や生活習慣改善状況、健康意識を確認しながら 3 ヵ月間、電話やメールで継続的に支援を行っている。

＜初回面談方法＞

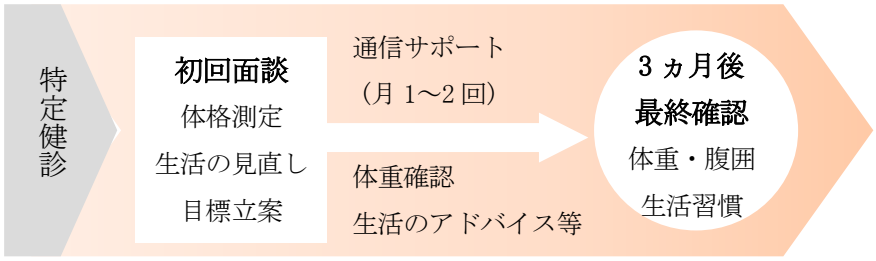
対面または遠隔面談

＜スケジュール＞

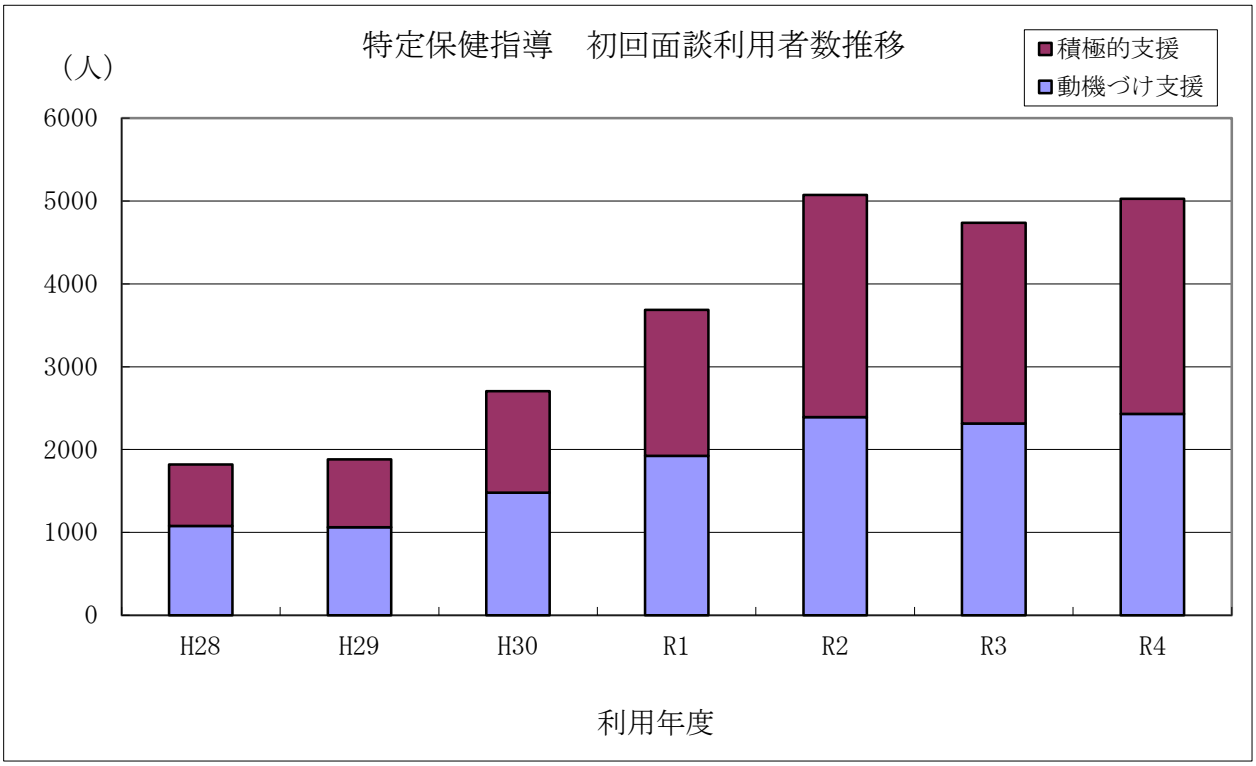
【動機づけ支援】



【積極的支援】



＜令和４年度初回面談利用者数＞



	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
動機づけ支援	1,076	1,063	1,478	1,924	2,391	2,313	2,432
積極的支援	745	820	1,225	1,764	2,682	2,424	2,596

＜実施成果　令和３年度実績＞

			動機づけ支援	積極的支援
初回面談実施者数			2,313	2,424
終了者数（%）			2,198(95.0)	2,188(90.3)
	体格	体重：3 kg以上減量者数（%）	140(6.4)	265(12.1)
		腹囲：3 cm以上減量者数（%）	263(12.0)	466(21.3)
	生活習慣	食生活：改善者数（%）	1,738(79.1)	1,950(89.1)
		身体活動：改善者数（%）	1,392(63.3)	1,513(69.1)
		喫煙：喫煙者数	97	993
		禁煙者数（%）	3(3.1)	36(3.6)

(2)産業保健サポートサービス

「働き方改革関連法」の施行に伴い労働安全衛生法が改正され、産業医・産業保健機能強化が明記された。これに伴い、産業保健業務を産業医と保健師が連携し、産業保健の充実を図ることを目的として、総合的にサポートする「産業保健サポートサービス」を実施している。契約数は50団体、産業医契約のみは1団体である。衛生教育や多種の面談など契約団体に寄り添った内容を提供している。

＜活動一例＞

プレミアムサポートプラン（産業医派遣12回以上／年契約）

・A事業所　：　産業医：1日12回、半日6回派遣、Web会議2回、Web産業医面談3回

・B事業所　：　産業医：半日12回、保健師：半日6回派遣、来所型産業医面談1回

ベーシックサポートプラン（産業医および保健師派遣12回以上／年契約）

・C役　場　：　産業医：半日2回、保健師：1日12回、来所型産業医面談4回

・D事業所　：　産業医：半日6回、保健師：半日6回派遣、来所型産業医面談1回

＜訪問・面談回数＞　（回）

	R4 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5 1月	2月	3月	総数
産業医派遣	20	15	18	20	20	20	19	16	17	22	30	22	239
保健師派遣	8	7	9	7	9	9	11	11	12	9	14	10	116
来所型 産業医面談	6	6	7	7	4	4	3	9	8	4	3	7	68
Web 産業医面談	1	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	3	8

産業医･保健師訪問活動内容

1) 健康診断結果有所見者の保健指導
2) 長時間労働者・高ストレス者面接
3) 休職・復職面談
4) 治療と職業生活の両立支援面談（がん・慢性疾患など）
5) 職場巡視
6) 安全衛生委員会への出席（報告）
7) 衛生教育
8) 産業保健体制整備・年間計画策定への助言
9) 事業主、人事担当者への意見具申
10) その他

産業医管理業務内容

1) 健康診断後の就労判定および要指導対象者の選定
2) 精密検査・治療結果の把握
3) 長時間労働者面接後の意見書の策定
4) ストレスチェック後の医師面接要否の判断および集団分析結果確認
5) ストレスチェック面接後の意見書の策定
6) 不調者に関する診療情報提供書の策定および復職時の産業医意見書の策定
7) 健康管理状況・作業内容・作業環境等の情報をつきあわせて原因の検討、対策の立案
8) 労働基準監督署への報告書類の記名・捺印
9) 依頼事項や相談への対応
10) その他

(3)保健師契約

各健康保険組合や企業との契約で、被保険者や従業員を対象にデータヘルス事業として若年者へのメタボリックシンドローム予防や糖尿病重症化予防支援、また企業外健康診断機関の保健師として事業所訪問による保健指導、高ストレス者のフォロー、健康相談等を実施している。

(4)健診結果説明会(事後指導)

事業所及び市町村との契約で、健診実施後に保健師が訪問し健診結果説明会を実施している。受診者自身が健診結果から自分の健康状態を理解し生活習慣を振り返ることで、今後の生活における改善点を見出すことができるようサポートを行っている。

＜内　容＞　(事後指導実施団体　10 団体)

1)健診結果(健診データ、判定、所見など)の見方について
2)生活習慣(食生活、運動、飲酒、喫煙など)改善のアドバイス
3)要精密検査、要治療者へ医療機関受診を勧奨
4)必要な精密検査の説明(検査種類、方法など)

(5)健康セミナー・健康講演会（職員派遣）

＜概　要＞

健康セミナーでは、生活習慣病に関する正しい理解と予防・改善に向けた効果的な方法や健診受診の重要性を学び、健康づくりのきっかけとなる内容を実施している。

健康講演会（職員派遣）では各団体の依頼に応じ、保健師・管理栄養士・運動指導士の派遣を行っている。

＜動　向・成　果＞

健康セミナーは、企画立案から実施・評価まで年間通して4団体を対象に計6回開催した（下表のとおり）。2団体は、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、対面型のセミナーを実施。他の2団体はオンデマンド配信によるセミナーを実施した。また、セミナー終了時のアンケート回答もGoogle Formsを用い、各自のスマートフォンからQRコードを読み取り、入力できるように変更した。従来の記述型に比べ回答が容易で、用紙回収などもなくなり、集計処理の簡略化や報告書作成の時間短縮にもつながった。

セミナー内容	回数	延べ人数
生活習慣病予防改善セミナー	3	107
健康運動セミナー	1	34
重症化予防セミナー（動画配信）	1	75 （アンケート回答）
メンタルヘルスセミナー（動画配信）	1	322 （アクセス数）
計	6	538

健康講演会（職員派遣）は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面方式での開催を自粛する団体が多かった昨年度に比べ、10団体12回の実施となり、少しずつ依頼が増加傾向であった。内2団体においてはオンデマンド配信・オンライン配信にて実施した。

	内容	回数	派遣職員
1	高齢者の運動	1	運動指導士
2	生活習慣病予防	1	保健師
		1	運動指導士
3	栄養講話	1	管理栄養士
	運動講話実技		運動指導士
4	肩こり腰痛対策	1	運動指導士
5	ロコモ対策	2	運動指導士
6	デスクワーク時のストレッチ	1	運動指導士
7	乳がん早期発見早期治療	1	保健師
8	栄養講話と日赤健康薬膳試食	1	管理栄養士
9	栄養知識学研修	1	管理栄養士
10	循環器疾患予防栄養講話	1	管理栄養士

(6) マッサージルーム

＜概　要＞

当センターでは、検査の待ち時間などに利用できるマッサージルームを設置している。専任のマッサージ師 1 名を配置し、「20 分」または「40 分」の 2 コースを実施。利用者には検査の合間にゆっくりした時間を過ごしていただいている。

また 2 日コース人間ドック受診者(センター泊限定)に対して、4 月から無料のマッサージサービスを開始した。コースは足裏、肩、手の中から 1 つを選択し、10 分程度のサービスが受けられる。1 日目の検査終了後から夕食までの時間帯に提供している。

＜動　向＞

センター泊のマッサージサービスを受けていただいた方からは、「このまま継続して欲しい」、「健診後のマッサージがとても嬉しかった」、「とても楽しみにしていた」など好評であった。

＜マッサージルーム利用状況＞　(延べ人数)

	R4 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	R5 1 月	2 月	3 月	総数
20 分 コース	15	27	23	22	28	20	23	37	22	16	21	27	281
40 分 コース	10	21	26	20	29	26	27	22	32	24	22	23	282

(7)健康支援サイト「日赤 hara 凹(ボコ)ナビ」

＜概　要＞

当センター利用者の健康意識向上と健康行動の実践を推進することを目的に、受診者と一体になって楽しく取組むことができる ICT を用いた健康づくり支援を展開している。

＜特　徴＞

① 当センター専門スタッフ(医師・保健師・管理栄養士・運動指導士)による健康情報の配信
② スマホやパソコンで体重管理
③ 楽しみながら健康づくり（育成キャラ・歩数でマップやポイントランキング）
④ ニックネームで気軽に登録

＜動　向＞

平成 26 年 9 月 1 日から開始し、登録者数は令和 5 年 3 月末日時点で 2,482 人となったが、1 年を通しての登録者数は減少傾向にある。健康情報の配信として、月に 2 回、食事（レシピ含む)、運動、「〇〇月間」や「〇〇デー」に合わせた啓発や情報提供を行った。ダイエットを希望する方、現在の体重をキープしたい方、健康についてもっと知りたい方など、「日赤 hara 凹ナビ」を通して、登録者の健康や体の引き締めをサポートしている。

＜情報提供＞　※一部記載

時期	テーマ（カテゴリー）
R4 4 月	食べると得する「朝ごはん」（食事）　／　睡眠不足で体重が増える?!（生活）
5 月	清涼飲料水に含まれる砂糖について（生活） 喫煙者はコロナワクチンの抗体量が少なくなる…?　（生活）
6 月	ご飯さえ減らせばいい?（食事）　／　停滞期は順調な証拠！あきらめないで!!（生活）
7 月	夏は痩せにくい?!（生活）　／　同性、同年齢の人と比べ歩くのは速い?（身体活動）
8 月	元気が出るそうめんレシピ（レシピ）　／　エクササイズ・スナッキング（身体活動）
9 月	野菜で太る?!（食事）　／　ジャムは果物?（食事）
10 月	10 月はピンクリボン月間！（生活）　／　座っている時間は何分?（身体活動）
11 月	食欲の秋、果物の秋、食べ過ぎの秋・・・　～あま～い果物にご用心～（食事） 糖尿病と歯周病の深～い関係（生活）
12 月	栄養満点の鍋料理に落とし穴?!（食事）　／　かっこよく歩く（身体活動）
R5 1 月	冬こそ注意しよう！かくれ脱水って?!（生活）
2 月	たんぱく質はたくさんとった方がいい?（食事）　／　睡眠不足で太る?!（睡眠）
3 月	健康な歯を維持しよう！（歯科）

(8)広報・マスメディアを通しての健康情報提供

＜概　要＞

情報提供として、テレビ、新聞、情報誌などのメディア取材や原稿の対応をしている。

＜動　向＞

健康情報提供については昨年度に引き続き、動画を中心に新聞・情報誌などのメディア出演や原稿協力を積極的に行い、人間ドックや健診当日だけでなく、広く情報の発信を行った。

＜内　容＞

	管理栄養士	運動指導士
テレビ取材協力 (1 回)	・もやしの栄養価について	
原稿協力 (12 回)	・食中毒予防 ・喉が渇いてからじゃ遅い！？ ～水分補給のススメ～ ・玄米のチカラ ・みなおそう！備蓄食品 ～日頃から非常食に 慣れてみよう～ ・たんぱく質とからだの ちょ～どイイ関係 ・プチ不調について ・受験生に役立つ情報　食事 ・“ととのう”朝ごはん ～“調子がいい”への近道は 充実した朝ごはん～ など	・冷え症撃退！ 自宅で簡単ストレッチ ・階段運動のススメ
動画配信 （公式 YouTube） 令和 5 年 3 月現在	栄養動画　(26 本) ・日赤健康薬膳 ・時短♪カンタン♪ ヘルシーレシピ	運動動画　(20 本) ・あなたにおすすめ「プラス 10」 ・おやすみ前のストレッチ& 目覚めのストレッチ ・骨盤体操、有酸素運動 ・体感トレーニング ・ロコモ予防体操 ・エコノミークラス症候群予防 ・筋力、免疫力アップトレーニング

5. 外来事業

＜概　要＞

当センターでは、人間ドックや健康診断受診後に必要な再検査や精密検査を提供する目的で外来診療を実施している。診療科目は主に、糖代謝や脂質代謝を診療する「再検外来」・「代謝外来」、消化管や肝機能などの「消化器外来」、肺や肺機能などを診療する「呼吸器外来」を設定し、重大な病気の発症予防や重症化予防のために、生活習慣改善や定期的なフォローによる健康支援を提供している。また、疾病の鑑別診断や重症化予防だけではなく、肺がんの発症予防のために禁煙を支援する「禁煙外来」なども行い、疾病の発症予防を目的とした予防医療に注力している。

＜動　向＞

平成 10 年 6 月から、人間ドックや各種健診後の異常者をフォローする目的で外来診療を実施している。当センターの外来診療は、薬物治療が必要となる前に生活習慣を変えることで疾病の発症予防と重症化予防を図ることが大きな目的であり、診療には、医師、看護師だけでなく、保健師管理栄養士、運動指導士などを配置し、日常生活における食事、運動などの生活習慣の改善支援を専門スタッフが行えるよう配慮している。また、人間ドック受診後や健診受診後のフォローと鑑別診断を中心に外来診療を提供するため、これらの健診受診者を優先する完全予約制で診療を提供している。

平成 23 年 1 月からは胃がんや潰瘍の発症要因とされているピロリ菌の除菌を目的とした診療を開始し、平成 24 年 10 月から、がんや様々な生活習慣病の発症因子、増悪因子となる「喫煙」についても禁煙治療（禁煙外来）を実施し、平成 25 年度からは熊本赤十字病院で治療上、禁煙が必要と判断される方に対し、連携して「禁煙治療」を実施している。

平成 27 年度には、骨粗鬆症の予防にも取り組み、人間ドックや健康診断の骨密度検査で要再検査や要精密検査となった方への診療を行い、治療及び他の医療機関との連携等、健康支援も提供している。

令和 2 年度からは新型コロナウイルス感染防止対策として慢性疾患を有する定期受診者に対し、電話での診療及び処方を行うことが可能となり、当センターでも迅速に対応し感染防止に努めた。

令和 3 年度には当センターの人間ドック・健康診断を受診し、「がんの疑いで精査中」または「主治医でがんの診断・治療中・治療後」等の方で、健康や生活に不安を抱えている方を対象に、より納得して治療を受け、生活していただくためのご支援として「がんよろず相談室」を設け、ご自身のニーズにあったリソースの紹介（がん相談支援センター、行政窓口、ピアサポート等）を行っている。

令和 4 年度にはマイナンバーカードによるオンライン資格確認システムを導入し、診療情報を取得しながらより質の高い医療の提供と業務の効率化に取り組んでいる。

●保険診療委員会開催

第 1 回　令和 4 年　4 月 25 日（月）15:30 ～

第 2 回　令和 4 年 10 月 14 日（金）15:30 ～

第 3 回　令和 5 年　2 月 27 日（月）15:30 ～

＜成　果＞

外来診療の実績は下記のとおり（保険診療・自由診療）

外来診療実績（初・再診別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	28	24	21	40	32	21	24	33	20	19	18	29	309
再診	411	401	469	445	475	437	477	440	494	386	414	514	5,363
その他	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
計	439	425	490	485	507	458	501	473	514	405	432	543	5,674
院外処方	195	171	208	188	176	212	181	170	217	174	165	234	2,291

診療科目別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
消化器	58	45	40	56	50	52	63	66	67	54	48	66	665
代謝	131	83	117	125	96	109	117	95	109	115	96	133	1,326
再検	91	117	109	112	116	123	116	113	146	87	113	135	1,378
呼吸器	147	168	205	174	221	155	192	183	176	139	162	190	2,112
乳腺	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
禁煙	3	7	10	14	12	11	9	4	4	3	3	6	86
一般	8	2	8	4	12	8	3	11	11	6	10	11	94
歯科（自由）	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	2	6
内科・その他	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
学校検診二次	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	439	425	490	485	507	458	502	474	514	405	432	543	5,674

＜課　題＞

人間ドックや健診で見つかる軽度の異常を放置することは、せっかく発見された病気の兆候を放置し、医療機関で治療が必要なまでに病気を重症化してしまうことを意味する。予防医療の役割は、病気を早期発見するだけではなく、人間ドックや健診で軽度の異常が見つかった方に対して、積極的な生活習慣改善の支援を行い、病気にならないよう医療サービスを施すことが本来の予防医学と考える。当センターで行う外来診療の大きな目的は、何らかの異常が発見された方に対して必要な検査を提供するとともに、生活習慣改善による病気の発症や重症化を防ぐための支援を提供すること、また、疾患が疑われ、精密検査や治療が必要な方は専門の医療機関や地域の医療機関に連携し、適切な地域医療サービスを受療してもらうことを目的としている。

今後も人間ドックや健診で異常が見つかった方が、より受診しやすい外来になるよう、地域の医療機関と連携した外来機能の充実に努める。

各部門この一年

1. 放射線診断部

放射線課

＜概　要＞

放射線課には、診療放射線技師21名、メディカルエイド５名、事務職４名が在籍しており、胸部Ｘ線検査、胃部Ｘ線検査、マンモグラフィ検査、胸部ＣＴ検査、腹部ＣＴ内蔵脂肪検査、頭部ＭＲＩ＋ＭＲＡ検査、骨密度検査を担っている。

＜動　向＞

令和４年５月に、３階胸部Ｘ線装置、令和５年１月に３階マンモグラフィ装置を更新した。胸部Ｘ線装置は、診断用Ｘ線発生装置にキヤノンメディカルシステムズの医用Ｘ線高電圧装置 KXO-50SS、医用Ｘ線機械装置に富士フイルムメディカルの CALNEO　PU　FM-PU1、マンモグラフィ装置は、富士フイルム株式会社のデジタル式乳房用Ｘ線診断装置、AMULET Innovality を導入した。

＜成　果＞

令和４年度の実績は、胸部Ｘ線検査約 99,000 件、胃部Ｘ線検査約 29,000 件、マンモグラフィ検査約 27,000 件、胸部ＣＴ検査約 5,000 件、内臓脂肪ＣＴ約 900 件、頭部ＭＲＩ＋ＭＲＡ検査約 2,700 件、骨密度検査約 7,300 件であった。

＜課　題＞

胃がんの罹患数は、男性第３位（*1）、女性第４位（*1）であり、死亡数は、男性第３位（*2）、女性第５位（*2）である。近年、胃がんの死亡数は男女ともに減少傾向にある。胃部Ｘ線検査を用いた胃がん検診は、胃がんの死亡率減少に効果があることが証明されている。令和３年度より、胃部Ｘ線検査受診者への声かけを変えることで、検査を中止する受診者を減らし、受診率向上に繋げていたが、令和４年度の受診者数は、令和３年度と比べ横ばい状態であった。胃部Ｘ線検査では、バリウムが苦手で受診を躊躇する方も少なくないため、令和５年度より、バリウムにお好みの香料を加え飲みやすくすることで、受診率向上に努めたい。

また、わが国において、肺がんの罹患数は男性第４位（*1）女性第３位（*1）であるが、死亡数では男性第１位（*2）、女性第２位（*2）であり、肺がんの早期発見が急務である。胸部Ｘ線検査に加え、胸部ＣＴ検査を受診することで早期に肺がんを発見・治療することが可能となるため、胸部ＣＴ検診のさらなる受診勧奨を行いたい。

さらに乳がんにおいては、女性の罹患数、第１位（*1）であり、近年急増し続けている。マンモグラフィ検査では羞恥心や痛みを伴うため、一部敬遠する受診者もいるが、診療放射線技師が技術の向上を行うと共に受診者の気持ちに寄り添った検査を行うことで、可能な限り受診者の負担を減らしたいと日々研鑽している。それにより受診率を向上させ、早期発見・治療へと繋げていきたい。

一方、近年診療放射線技師の重要な責務となっているのが、機器管理及び被ばく線量の管理である。診療に必要な質の高い画像をより少ない被ばく線量で提供できるよう、第三者機関による精度評価（全衛連、精中機構等）を含め、始業点検や保守管理を徹底して行うことで精度向上に努めたい。

*1　2019 年時点　　*2　2021 年時点

＜有資格項目＞

当センターの放射線課では、以下の資格を有する放射線技師が在籍している。

胃がん検診専門技師（日本消化器がん検診学会）	7 人
胃Ｘ線検診読影補助認定技師（日本消化器がん検診学会）	3 人
胃がんＸ線検診技術部門 B 資格検定（NPO 法人）	2 人
胃がんＸ線検診読影部門 B 資格検定（NPO 法人）	4 人
検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師（精度管理中央機構）	7 人
肺がんＣＴ検診認定技師（肺がん CT 検診認定機構）	4 人
超音波検査士（消化器）（日本超音波医学会）	1 人
第一種放射線取扱主任者（原子力規制委員会）	1 人
放射線管理士　（日本診療放射線技師会）	2 人
放射線機器管理士　（日本診療放射線技師会）	2 人
医療画像情報精度管理士（日本診療放射線技師会）	3 人
医療情報技師（日本医療情報学会）	3 人

＜画像精度管理＞

胸部エックス線検査分野（全衛連　総合精度管理委員会）	評価Ａ
胃Ｘ線検査分野（全衛連・日本消化器がん検診学会）	評価Ａ

マンモグラフィ検診施設画像認定（日本乳がん検診精度管理中央機構）

＜活動項目＞

熊本大学医学部保健学科放射線技術科学専攻　非常勤講師	2 人
熊本大学医学部保健学科放射線技術科学専攻　臨床准教授	10 人
一般社団法人熊本県放射線技師会　常務理事	1 人
公益社団法人日本診療放射線技師会　業務改善推進委員	1 人
九州地域放射線技師会　常務理事	1 人
熊本県生活習慣病健診等管理指導部会　委員	1 人
熊本県肺がん部会　委員	1 人

＜参考文献＞

国立がん研究センター がん情報サービス　ホームページ

2. 検査部

(1)第一検査課

＜概　要＞

第一検査課の主な業務内容は人間ドックや施設内外の健康診断、外来診療等に関わる検査業務である。検体検査においては血液生化学検査、尿検査、便潜血など年間約 14 万検体を検査している。人間ドックにおいては、採血・体格測定・視力・聴力・腹囲測定・眼底・眼圧・肺機能・安静心電図・負荷心電図・血圧脈波・頚動脈超音波・心臓超音波・視野検査など数多くの検査を実施している。

また、健康診断においては、採血・体格測定・視力・聴力・腹囲測定・眼底・安静心電図・尿検査などを担当している。その他、外来の採血や子宮がん検診・病理組織検査、VDT 検診の検査、学校心電図検査といった幅広い検査業務を行なっている。

＜動　向＞

人間ドックでは眼底カメラ１台、施設内健診では聴力検査用のオージオメータ１台、心電計１台、施設外健診では検体分離用遠心器１台、検体検査では血糖測定装置１台、検体保管用冷凍冷蔵庫１台を更新し運用の改善、精度の維持・向上に努めた。

また、前年に引き続き検査技師としての技術や知識の向上をはかるため例年実施している課内の勉強会は、昨年に続き新型コロナウイルス感染防止のため密を避ける意味からパワーポイントなどを活用し WEB での開催とした。

＜成　果＞

今年度の検査課実績としては、2 日人間ドック受診者が約 3,700 人、1 日人間ドック受診者が約 26,500 人、あわせて約 30,000 人の方々に対して生理検査が 15 項目と血液検査等が 30 数項目の検査を実施した。また、健康診断においては、施設内健診受診者が約 40,000 人、施設外健診受診者は約 77,000 人、合計約 117,000 人の方々に対して、生理検査が約 8 項目、血液検査等が約 20 項目の検査を実施した。その他主な検査として、外来受診者の採血が約 4,000 人、子宮頸部細胞診が約 25,000 人、頚動脈超音波検査が約 5,000 人、血圧脈波検査が約 2,300 人、負荷心電図検査が約 4,000 人、心臓超音波検査約 700 人という実績であった。その他にも学校心電図検査や VDT 検査を実施している。

＜課　題＞

検査業務については昨年と同様の実績であった。

今年度も昨年に続き、新型コロナウイルスに対する受診者、検査スタッフの感染予防対策を講じての検査実施となった。

また、コロナ感染拡大による人員不足により検査スタッフにおいては苦心する１年であったと思う。

今後新型コロナ５類以降後も、今回の対策で見えてきた課題を生かし、改善の実行、感染対策の継続等より良い業務体制の構築に努めるとともに、計画的な機器の更新の実施、時代に沿った検査機器、検査項目の情報収集、導入に努めていくことが必要である。また、若い人材の採用、育成について第二検査課と連携し強化していきたい。さらに、検査部門での精度管理等精度の向上、技術や知識の向上に取り組んでいきたい。

(2)第二検査課

＜概　要＞

臨床検査技師 22 人（男性 7 人・女性 15 人）が在籍しており、超音波検査及び結果データ入力業務を行っている。

◎対象臓器：腹部（肝臓・胆のう・胆管・すい臓・腎臓・脾臓・腹部大動脈）
乳房*・甲状腺*・頚動脈*・膀胱*（* はオプション検査）

◎超音波診断装置使用機種：

Canon 社製（14 台）　：Aplio300・400・α-Verifia
日立製作所製（2 台）　：Prosound α7
PHILIPS 社製（2 台）　：Affiniti 70

＜動　向＞

施設内では、南館 4 階超音波検査室にて 7 台の超音波診断装置で人間ドックの腹部超音波検査に対応している（このうち 1 台が頚動脈超音波検査に対応）。また、南館 2 階超音波検査室にて 3 台の診断装置で施設内健診及び外来検査に対応している。施設内においては、すべて診断装置 1 台につき技師 1 人が対応している。

施設外では、8 台の検診車に 9 台の診断装置を搭載し（検診車 8 台のうち 1 台に診断装置を 2 台搭載）、最大 12 人の技師が対応している。

施設外健診において検診車 8 台（診断装置 9 台）すべてが稼動する場合、診断装置 3 台は 1 台につき技師 2 人（主に乳房超音波検査：女性技師）で対応し、6 台は 1 台につき技師 1 人（主に腹部超音波検査）で対応している。

令和 4 年度もパソコン上で所見を管理するペーパーレス化を継続し、画像記録形式は DICOM で行っている。

人間ドックのオプション検査として膀胱超音波を導入した。（予約、定員制）

＜成　果＞

令和 4 年度部位別超音波検査受診者数

	腹部超音波	乳房超音波	甲状腺超音波	膀胱超音波
1 日ドック	26,520 人	8,321 人	3,742 人	486 人
2 日ドック	3,709 人	613 人	566 人	242 人
施設内健診	6,103 人	7,160 人	576 人	
施設外健診	30,240 人	12,716 人	3,825 人	

総数を昨年度と比較すると、腹部超音波は 468 人の増加、乳房超音波は 130 人の増加、甲状腺超音波は 3 人の減少であった。

1 日ドックでは腹部超音波は 194 人の増加、乳房超音波は 161 人の増加、甲状腺超音波は 141 人の減少、2 日ドックでは腹部超音波は 20 人の減少、乳房超音波は増減なし、甲状腺超音波は 30 人の減少、施設内健診では腹部超音波は 268 人の減少、乳房超音波は 68 人の増加、甲状腺超音波は 46 人の増加、施設外健診では腹部超音波は 562 人の増加、乳房超音波は 99 人の減少、甲状腺

超音波は122人の増加だった。

また新規事業の膀胱超音波は1日ドック486人、2日ドック242人だった。

◎日本超音波医学会認定技師

消化器領域22人・体表領域22人・泌尿器領域14人・循環器1人（第二検査課のみ）

◎全国労働衛生団体連合会による令和4年度腹部超音波精度管理パイロット調査

「評価A」

＜課　題＞

第一検査課・第二検査課が、お互いの業務を共有できるよう人材の有効活用を目的に取り組んできた結果、昨年度より各スタッフが色々な部署において協力体制の構築ができた。しかし、スタッフの業務の負担は大きいのでさらなる負担軽減に努めたいと考える。

令和 4 年度も時間外勤務の削減に取り組み、施設内健診では基本的に定時で退社するように、施設外健診では帰社後の処理が済んだら退社するように意識改革に取り組んでいる。次年度も業務内容を検討し、さらなる改革に取り組みたいと考える。

人間ドックにおいては令和2年度のペーパーレスへの運用変更と、令和3年度からの新健診システム導入により腹部検査の終了時間が早くなった。そのため、オプション検査を午前中に開始できるようになり、待ち時間の短縮につながった。今後も、オプション検査についても受診者を待たせる事なく実施できるような体制を維持したいと考える。

日本人間ドック学会から推奨されている腹部超音波所見のカテゴリー分類に関しては、以前から導入しており現在進行中である。

3. 保健看護部

＜保健看護部の理念・方針・実践目標＞

①保健看護部理念：私たちは、すべての人の人権を尊重し、グローバルな視点を持ち、赤十字の基本である『人にやさしい思いやりのある心』を持って、保健・看護サービスを提供します。

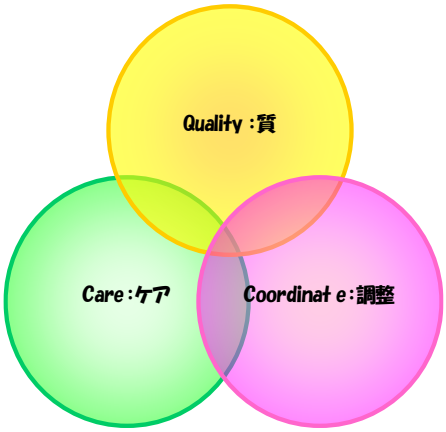
②保健看護部方針：①すべての人の健康や生活の質の向上を目指し、継続的な支援を行う。
②保健や看護の専門性を発揮し、事故のない安心で安全な看護サービスを提供する。
③質の高い保健・看護サービスを提供するために自己研鑽に努める。

③実践目標：単に疾病の早期発見だけではなく、健康を支援するために、常に最高水準の看護サービスが提供できるように、保健指導の技術を磨き、知識を深めることに努めている。そのために、専門職のアプローチとして、「Quality」「Care」「Coordinate」の３つの「QCC」を実践目標としている。また、受診者やスタッフが安心・満足して過ごせるような環境をつくることも目指している。

＜Quality＞　受診者のQOLの向上・スタッフのQWLの向上・看護の質向上

＜Care＞　受診者ニーズに応じたケアの提供
生活背景を視野に入れたケアの提供
安全と安楽を目指したケアの提供

＜Coordinate＞　受診者と適正な医療・社会資源との調整、スタッフ間の調整、地域・職域における保健事業との調整



＜保健看護部の組織と業務内容＞

保健看護部は、保健看護課・健診保健課・外来看護課・お客様サポート課からなる４課８係の組織である。

・保健看護課：人間ドック事業にて保健・看護領域全般に関与し、また健康増進部と連携し特定保健指導等にも取り組んでいる。

・健診保健課：施設内・施設外の健康診断に関与し、5がん検診や特定健診・生活習慣病健診・特殊健診等に取り組んでいる。

・外来看護課：外来看護係では、保険診療外来（消化器、代謝、呼吸器、再検査など）にて人間ドック・健診後のフォローアップ目的で、再検査や精密検査、生活指導を行い、内視鏡看護係では、上部・下部消化管内視鏡検査など、安心・安全な検査が受けられるように支援している。

・お客様サポート課：お客様相談係と健康情報係にて受診者サービス及び総合精度管理・医療安全管理（感染管理を含む）の事務局として人間ドック事業・健診事業・外来事業の前方支援・後方支援を行っている。

＜教育体制＞

教育システムは「赤十字のキャリア開発ラダー」を導入し、看護職個々人がキャリアアップできるよう継続教育のシステムを整備している。平成22年度より健診施設独自の新人・現任集合教育

に取り組み、平成25年からは中途採用者のOJT教育体制の充実を図り、平成26年度からは新人、中途採用者や配置換え職員へのメンタルサポート支援を実施している。また平成23年度から「管理者ラダー」を導入し、課長（師長）を対象とした日本赤十字社本社の看護管理者教育者研修や九州ブロック赤十字医療施設の看護管理者研修に参加している。また看護協会主催の新人教育研修責任者等研修や認定看護管理者研修等に積極的に参加する等、看護管理の教育にも取り組んでいる。さらに保健看護部内で、主任・係長・課長（師長）に対して同内容で月に２回の管理者研修を実施した。内容は「アサーティブコミュニケーション」、「アンガーマネジメント」、「Why思考」、「労務管理」等である。

＜令和４度保健看護部の活動目標と成果＞

【活動目標】

1. 看護要員の確保と定着
2. 看護要員の人材育成
3. 質の高い看護サービスの提供
4. 業務サポート体制の強化

【成果】

看護要員の確保は、育児休暇・育児短時間制度利用者が増加していることや保健看護部の業務が多岐に渡ることから増員せざるを得ない状況にあり、喫緊の課題である。しかし今年度は、採用計画どおりにいかず人員不足が続いている。

人材育成については、保健看護部のOJT研修、現任教育のみならず、各課、係で勉強会を計画し、同内容の研修を２回開催やWEB研修にするなど今年度も感染症を考慮した研修形式で行った。熊本県看護協会主催の研修会の参加も時期によってはWEB研修となった。

質の高い看護サービスの提供では、「医療安全管理体制の強化」、「感染対策の強化」、「健康支援サービスの強化」、「精度管理の強化」に取り組んだ。医療安全管理体制の強化については、各部署で緊急時のシミュレーションを行った。保健看護課では、「マンモグラフィ検査後意識消失（頭部打撲）の対応」を行い、健診保健課では、「施設外健診での緊急時対応」、「子宮がん検査時の緊急時対応」を実施した。外来看護課では、「南館１階外来での災害時の避難訓練・緊急時対応」、「内視鏡室での災害時の避難訓練・緊急時対応」を実施した。

新型コロナウイルス感染症対策として、受診者来所時の体調チェック等の感染対策を継続して取り組み、職員の濃厚接触者には抗原定性検査を導入した。内視鏡看護係では、例年どおり「感染管理」「内視鏡機器の消毒」について勉強会を開催し、週１回内視鏡スコープのATP検査を継続実施している。

健康支援サービス品質管理の充実では、日本糖尿病療養指導士及び地域版糖尿病療養指導士24名が在籍しており糖尿病作業部会のメンバーとして活躍している。熊本県の熊友パスでの連携を強化し、令和４年度は約207件の連携を行った。また「食事・運動・ストレス」「禁煙指導・減酒支援」について保健指導従事者を対象にWEB研修を行った。

精度管理については､総合精度管理委員会の下部組織であるワーキンググループ(以下WG)にて各課題に取り組んだ。肝疾患WGでは人間ドックに「FIB-4index」の項目を本格導入し、ウィルス性肝炎の受診勧奨用のリーフレット作成に取り組んだ。また子宮がん検診WGでは液状化細胞診の導入について検討した。

業務サポート体制の強化については、各部署で減災カレンダーを用いて受援体制について検討し、コロナ禍での人員不足をタスクシェアすることで対応することができた。

(1)保健看護課

＜概　要＞

保健看護課は人間ドックの看護業務や保健相談、口腔内検診、あたまの健康（認知機能）チェックを担当している。血圧測定・問診では受診者の体調や病歴等の確認を行い、体調不良時は看護ケアを行い、受診者が安全に検査を受けることができるよう努めている。診察介助は問診や検査結果を確認し必要な情報を医師へ報告し、診察・結果説明が円滑に実施されるよう配慮している。当日の医師の結果説明の後に保健相談や特定保健指導を行い、要精査・治療受診勧奨や生活習慣改善支援を行っている。また歯科衛生士が口腔内検診介助や歯のクリーニングを行っている。

＜動　向＞

令和４年度は医療安全体制の強化として、緊急時マニュアルや災害時アクションカードを見直し、「マンモグラフィ検査後意識消失（頭部打撲）の対応」や「地震発生時の対応」についてシミュレーションを行った。Ⅲ度高血圧事例検討会や頭痛の看護について勉強会を行った。

感染対策の強化として、コロナ禍において受診者が安心して人間ドックを受診していただけるようチェックリストや環境整備を見直した。

特定保健指導は、減量率や脂肪肝改善例、成功事例を活用し前年度より実施率が向上した。また最終評価時のメール入力作業を減らし返信率を上げる目的で、最終評価メールに回答ＵＲＬを貼り付け送信した。返信率や終了率、改善率など今後評価予定である。保健相談ではFIB-4indexパンフレットを改訂した。FIB-4indexは令和３年度７月から導入しているが令和３年度肝機能精査受診率の上昇を認めた。糖尿病については精査受診勧奨パンフレットを作成した。また保健相談事例検討会を行った。

業務サポート体制強化として、災害時に備えた緊急時の人員配置と業務内容、通常業務における人員不足の際の人員配置と業務内容を検討し減災カレンダーを作成した。

WEB問診導入に向け、情報収集や医局や関連部署と問診内容の見直しを行った。

令和４年度をもって口腔内検診は終了となった。令和５年度から歯周病リスク検査が導入されるため問診票や結果報告書の準備を行った。

＜課　題＞

・令和６年度からの第４期特定健診・特定保健指導への対応
・人員確保
・ＷＥＢ問診導入
・保健相談・特定保健指導の質の向上

(2)健診保健課

＜概　要＞

健診保健課の主な業務内容は施設内外の健康診断に関わる業務とドック・施設内外の婦人科検査に関わる業務である。具体的には、血圧測定・問診・診察介助・婦人科検査介助のほか、人間ドックのレディースコースでは保健相談・特定保健指導、健康診断では予防注射業務を実施している。

＜動　向＞

令和４年度も施設内健診の協会けんぽ健診受診者においての当日特定保健指導を行う体制を地域産業保健課と連携し継続して行っている。

施設内外健診においては、密防止のための受付時間案内が受診者へ浸透し、大きな混乱なく健診実施することができた。

安全面においては施設内健診の災害時アクションカードを作成、緊急時訓練の実施を複数回行い対応の強化を行った。

施設内外健診における減災カレンダーを作成し、スタッフ減の状況でも業務が継続できるような仕組みを整えた。

次年度から開始する施設内外の婦人科検査の液状検体細胞診の導入に向けての準備を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、今年度も職員のコロナワクチン接種の実施に携わった。

＜成　果＞

令和５年度からの婦人科検査の液状検体細胞診の導入に向けて婦人科ワーキンググループの中で作業部会を立ち上げ、運用・広報・システム面の準備を整えることができた。

健診フロアでの職員のコロナワクチン接種に関して円滑に安全に実施することができた。

ＷＥＢ問診導入を視野に今年度は病名コードの整理を行うことができた。

＜課　題＞

液状検体細胞診検査導入後の課題に対して適宜対応し安定稼動につなげていきたい。また、R6 年度からの第４期特定健診・特定保健指導に向けたシステムや体制の整備を行っていく予定である。

(3)外来看護課

＜概　要＞

外来看護課は、外来看護係と内視鏡看護係の２係からなる。外来看護係は、自施設の人間ドック・健診で再検査や精密検査となった受診者のフォローアップを目的とした保険診療外来において、問診、診察介助、保健指導などを実施している。内視鏡看護係は上部・下部消化管内視鏡検査の検査介助、検査前から体調回復までの看護ケア、機器の洗浄・消毒や管理など受診者が安全で安心して検査を受けられる支援を実施している。

＜動　向＞

外来看護係は、人間ドックや健診後の再検、精密検査を行う自施設の役割を踏まえ、かかりつけ病院や中核病院との連携を行った。禁煙外来は、ニコチン補助薬のうち内服薬の供給停止、貼付薬の供給制限により、認知行動療法等で継続実施した。年度途中に貼付薬の供給が再開し受診者も増加した。受診者支援として前年度から強化していた糖尿病、CKD、脂肪肝に対し支援パスを用いた保健指導、受診者が日常生活で活用しやすい媒体を作成した。

内視鏡看護係は、新型コロナウイルス感染症対策として、スタンダードプリコ―ション、PPE（個人防護具）、検査用マスクの着用を継続実施した。医療安全面では、前年度に２日ドックの全大腸内視鏡検査で導入した鎮静剤（ミダゾラム）は継続運用し、上部内視鏡の導入に向け年度末から試行運用を開始した。また、全大腸内視鏡検査において、検査精度向上のため、下剤の変更、低残渣食提供の検討を行った。今年度も災害時及び緊急時対応シミュレーションを実施し、アクションカードの見直しを行った。

＜成　果＞

外来看護係は、糖尿病、CKD、脂肪肝において支援パスの活用、媒体の活用方法の工夫や新規作成により保健指導を強化することができた。

内視鏡看護係は、感染対策を強化し継続実施ができた。全大腸内視鏡検査の鎮静剤（ミダゾラム）導入は安全な運用により定着できた。低残渣食の検討は部分的に実施し、次年度変更の整備ができた。

＜課　題＞

外来看護係は、糖尿病、CKD、脂肪肝等の保健指導を充実するとともに、ドック・健診の関係部署と保健指導の情報共有を検討し連携強化を行っていきたい。自施設の外来機能の明確化、医療機関との連携、電子カルテの導入について、次年度も引き続き進める。

内視鏡看護係は、内視鏡医師と連携し、上部内視鏡の鎮静剤（ミダゾラム）導入と定着をめざすとともに、引き続き情報収集を行いながら内視鏡機器、薬剤等の検討や感染対策の検討を行い、より安全で安心できる検査提供に向け体制整備を行っていきたい。

(4)お客様サポート課

＜概　要＞

お客様サポート課は、お客様相談係と健康情報係の２係からなり、人間ドック・各種健康診断受診前後の問合せ窓口としての役割をもつ。

お客様相談係は、受診前の検査内容の相談を受け、治療中の疾患や体調などを考慮して安心安全な検査の提供に努めている。

健康情報係は、検査結果に関する問合せや要精密検査の方を専門医療機関へ繋ぐ役割を担う。精密検査受診率向上のため医療連携機能を強化､未受診者への受診勧奨や精密検査結果の管理をしている。

＜成　果＞

人間ドック・健康診断で要精密検査となった方を専門医療機関に紹介、質の高い医療提供に努めている。特に、赤十字のネットワークを活かし、隣接する熊本赤十字病院へ紹介することで利便性の向上にもつながっている。

2021（令和３）年度の精密検査受診率は、人間ドック 75.3%、施設外健診 69.0%、施設内健診 59.8%であった。当日医師からの結果説明、受診勧奨を含めた保健指導を行う人間ドックと比較して、結果が後日郵送となる施設内外健診の受診率は低い傾向にある。そこで、施設内外健診でも要精密検査の方が速やかな受診につながるよう新たにリーフレットを作成し、精密検査項目、医療機関受診までの流れ、Web 上で受診報告ができる QR コードを掲載した。QR コードを読み取り受診報告をされた方の55%が健診から１ヶ月以内に医療機関を受診しており、早期受診のきっかけになっている。

＜課　題＞

血圧、糖代謝、脂質代謝などの生活習慣病関連の精密検査受診率の向上、5 がん検診については、特に大腸がん検査の精密検査受診率の向上に向け、他部署と連携し取り組んでいく。

調査報告

各学会及び市町村団体から、以下の依頼を受け集計報告を行った。

令和４年　４月　地域保健・健康増進法事業報告（25 市町村）
令和４年　５月　熊本県胃検診推進協議会　読影委員別結果報告
令和４年　９月　全国労働衛生団体連合会　腹部超音波検査精度管理調査
令和４年 10 月　全国労働衛生団体連合会　胸部Ｘ線検査精度管理調査
令和４年 10 月　全国労働衛生団体連合会　胃部Ｘ線検査精度管理調査
令和４年 10 月　日本人間ドック学会　健診施設におけるがん検診精度向上支援委員会調査
令和４年 11 月　前立腺研究財団　前立腺がん検診実態調査
令和５年　１月　日本消化器がん検診学会　消化器がん検診実態調査
令和５年　１月　日本人間ドック学会　新型コロナウイルス感染症に対する健診施設の影響調査
令和５年　１月　日本 CT 検診学会　胸部 CT 検診全国集計

地域保健・健康増進法事業報告より、当センターの健診成績は以下(表１)の通り。

（表１）地域がん検診の事業評価指数（許容値）と当センター検診実績（2020 年度）との比較

がん検診種類	要精検率（許容値）	精検受診率（許容値）	がん発見率（許容値）	陽性反応適中度（許容値）	全国の陽性反応的中度
胃がん（X線）	4.3%　（11.0%↓）	91.2%　（70%↑）	0.14%　（0.11%↑）	3.4%　（1.0%↑）	1.85%
胃がん（内視鏡）	3.6%	100%	0.23%	6.6%	4.82%
大腸がん	5.7%　（7.0%↓）	81.0%　（70%↑）	0.09%　（0.13%↑）	1.6%　（1.9%↑）	3.14%
肺がん	0.3%　（3.0%↓）	90.0%　（70%↑）	0.03%　（0.03%↑）	10.0%　（1.3%↑）	2.71%
乳がん（MMG のみ）	2.6%　（11.0%↓）	93.4%　（80%↑）	0.31%　（0.23%↑）	12.2%　（2.5%↑）	5.58%
子宮頸がん	0.5%　（1.4%↓）	88.2%　（70%↑）	0.00%　（0.05%↑）	0.0%　（4.0%↑）	1.18%

(委員会)

- ●医療安全推進室（随時）　医療安全に関する教育及び医療事故発生時の対応
- ●医療安全管理委員会（月１回）　医療事故等の予防対策等の推進
- ●リスクマネジメント部会（月１回）　医療事故防止対策等の実効化
- ●感染対策部会（不定期）　感染対策及び防止に関すること
- ●総合精度管理委員会（随時）　健診、検査に係る精度管理の評価・審議
- ●お客様サービス向上委員会（随時）　利用者に提供する各種サービスの向上に関すること

4. 健康増進部

健康増進部は、健康支援課、健康栄養課、地域産業保健課で構成されている。多職種（保健師、管理栄養士、運動指導士、事務）が一同に会しており、保健指導や健康の維持増進のための事業を行っている。健康支援事業については、P.36～43 を参照

(1)健康支援課

＜概　要＞

健康支援管理係と運動指導係の２係で構成されており、健康増進部の事業管理を担う。

（健康支援管理係）特定保健指導予約・受付から３ヵ月後の結果処理までの事務管理業務全般
講師派遣の調整
マッサージルームの運用およびティールーム管理
健康支援サイト「日赤 hara 凹ナビ」情報発信及び管理など

（運動指導係）　人間ドックにおける体力測定、運動指導
特定保健指導における運動指導
職員派遣（健康セミナー、健康講演など）
健康情報の発信（メディア、各広報誌など）

＜動　向＞

令和４年度の特定保健指導初回面談実施数は 5,028 人、令和３年度と比較して 291 人上回った。ドックや健診当日に対応する支援者の利用率アップや維持することを目標に日々取り組んだ成果であると考える。また、当係としては全体的に進捗管理を強化し、各部署のスタッフに対して、未終了者の確認や毎月の売上げ実績の報告を積極的に行い、意識を高めてもらうよう働きかけた。結果、昨年度より約 350 万円の増収に繋がった。

セミナー等については、コロナ禍による状況にも変化があり、オンラインでの実施が増えてきた。

運動の動画作成・配信については「あなたにおすすめ プラス 10」と題し、10 分間完結型の運動内容を作成。家庭や職場内でも気軽に運動が出来る環境づくりを提供した。

人間ドック運動指導	１日人間ドック	484 人
	２日人間ドック（特定保健指導含む）	3,165 人　（内特定　228 人）
健康支援事業	健康セミナー、健康講演会（職員派遣）	40 ページ参照
	各種メディア対応（新聞、雑誌など）	43 ページ参照
	動画配信（公式 YouTube）	43 ページ参照

＜課　題＞

特定保健指導の利用者数増に伴い、当然事務処理量も増加するため、スタッフのスキルアップや業務の簡素化・効率化を更に強化し、併せて第４期に向けての対応準備を進めていきたい。

人間ドック運動指導については、引き続き質の高い指導の提供と指導実施数の増加、受診者の満足度および経年受診率の向上などを目指していきたい。また、セミナー等に関しては、コロナ禍の緩和によりオンラインでの対応から対面型セミナーも徐々に増えていく傾向が予想される。どんな状況にも対応できる環境づくりを構築し、更に質の高い情報発信ができるようにしていきたい。

（委員会）

●支援事業検討委員会（不定期）　　●品質管理委員会（不定期）
●特定保健指導カンファレンス（月２回）

(2)健康栄養課

＜概　要＞

健康栄養課は２係で構成され、第一健康栄養係は、人間ドック、外来保険診療などの個別栄養相談を中心に、また、第二健康栄養係は、特定保健指導や健康セミナー、講演、各種のメディア対応などの業務を中心に担当している。人間ドックの食事「日赤健康薬膳」の毎日の提供は、第二健康栄養係の調理員により行っている。

＜動　向＞

コロナ禍の長期化の中、セミナー開催は縮小傾向が継続しており、年度前半においては感染対策を行った少人数型・オンデマンド型の配信などの形で開催した。年度後半は、人間ドックの食事体験を含む対面型セミナーの再開を希望される団体もありセンター内で開催した。コロナ禍を取り巻く環境は変化してきており、今後も柔軟な対応が必要と思われる。

特定保健指導については、今年度も実施率アップのため関係課と協力をしながら実施した。

人間ドックの食事「日赤健康薬膳」については、健康を大切にする食事のコンセプトは受け継ぎつつ昼食については、月水金は和食メニュー・火木土は洋食メニューと変化をもたせ、食器や盛り付けなどにも差をつけお客様サービスのための質の向上を目指した。また、日赤健康薬膳のYouTube レシピ動画については、総合企画課のサポートを受けながら、視聴者の料理の作りやすさ、簡便さを念頭に置き作成した。

＜成　果＞

人間ドック業務	1 日人間ドック健康相談	4,995 人
	2 日人間ドック　栄養問診・栄養相談	2,214 人
食事対応	食事提供数	36,017 食
	アレルギー等特別食対応	130 食
外来業務	外来栄養食事指導	125 件
健康支援事業	料理教室（センター主催）	COVID-19 のため中止
	各種メディア対応(テレビ、雑誌など)	43 ページ参照
	健康セミナー、健康講演会(職員派遣)	40 ページ参照

＜課　題＞

特定保健指導も令和6年度の第4期に向けて準備が必要となるが、初回面談利用率向上のみならず、アウトカム評価の導入をはじめとした成果重視の指導が行われるようになる。また、達成状況の把握や達成要因、ICT の活用などの視点も必要とされており、効率よく質の高い保健指導を目指していく必要がある。

健康セミナーなどの外部事業については、新型コロナウイルスの感染対策緩和に伴い対面型セミナーの増加も予測されるが、全て感染拡大前の形に戻るのではなく多角化していく可能性も大きい。時流を見据え、ニーズにあった健康教育・健康増進サービスの提供を検討していきたい。

「日赤健康薬膳」についても、より魅力的な食事を皆様に提供できるよう、今後も受診者サービス向上の面からも検討を重ねていきたいと考えている。

人間ドックの食事　～　日赤健康薬膳　～

人間ドックの食事は「日赤健康薬膳」と名づけている。「医食同源」の考えのもと、食材の持つ特性を生かしながら季節やからだに合った食品や調理法を選び、体調維持や病気の予防に役立つ健康料理を目指し、管理栄養士が献立を作成している。食事の提供においては、受診者がレストランを訪れてから配膳し、適温でおいしく食べていただけるよう心がけている。

日赤健康薬膳は、体験型の健康教育と位置づけており、家庭の中にも取り入れていただけるようビデオや管理栄養士によるミニ講話、QR コードを利用した動画レシピ視聴の案内などレストラン内での健康情報発信に努めている。

感染予防対策としてレストラン内の各テーブルには、パーティションを設置し、さらに手洗い、黙食への協力を依頼するなどの対策を講じながら食事の提供を行った。

＜日赤健康薬膳の食事のポイント＞

① １食の中で主食、主菜、副菜がそろった１食 700kcal 程度の栄養バランスのとれた食事
② 新鮮な食材の持ち味や自然のだしの旨味を生かした味付けで、１食の食塩相当量は 3g 以下
③ 主食は食物繊維やビタミン類の多い、七分つき米や麦などの雑穀を使用
④ 不足しがちなビタミン、ミネラルを多く含む野菜、海草、きのこなどを１日の半分以上取れる
⑤ できる限り地産地消（県産）、国産のものを使用

＜令和４年　２月～5 月献立＞

昼食（月・水・金曜）	昼食（火、木、土曜）	夕食
・麦ごはん ・あおさのみそ汁 ・豚肉のみぞれ煮あんかけ ・サワラの西京焼き ・ミモザサラダ ・にんじんとくるみのきんぴら ・長芋の黒酢和え ・わらび餅	・八穀ごはん ・キャベツとベーコンのスープ ・オイマヨチキン ・サケのオニオンソース ・パプリカのチーズマリネ ・ハニーマスタードポテト ・あずきミルクゼリー	・七分つきごはん ・若竹汁 ・焼きスコッチエッグ ・タイのソテー 木の芽クリームソース ・洋風茶碗蒸し ・野菜のおかか煮 ・春キャベツロール ・ジンジャージュレサラダ ・ピーチゼリー
熱量合計　655kcal 食塩相当量 3.0ｇ	熱量合計　675kcal 食塩相当量 2.9ｇ	熱量合計　720kcal 食塩相当量 3.0ｇ

＜令和４年　６月～9 月献立＞

昼食（月・水・金曜）

・麦ごはん
・オクラともずくの味噌汁
・和風大豆ハンバーグ
・鮭のグリルマヨしょうゆ味
・きゅうりとゴーヤの白和え
・メープルナッツかぼちゃ
・甘酒なます
・わらび餅

熱量合計　745kcal
食塩相当量 2.9ｇ

昼食（火、木、土曜）

・八穀ごはん
・レタスのスープ
・チキンと夏野菜の
　トマト煮込み
・魚の香草パン粉焼き
・キャロットラペ
　ふんわりりんご風味
・長芋のあめがけ
・ビーンズサラダ
・甘酒パンナコッタ

熱量合計　675kcal
食塩相当量 2.5ｇ

夕食

・七分つきごはん
・にんじんビシソワーズ
・塩麹漬けポークソテー
～バルサミコソース添え～
・鯛のアクアパッツァ風
・アボカドの
　スティック春巻き
・グリーンサラダ
　クリーミードレッシング
・たことオクラの
　ジンジャージュレ
・ジャーマンポテトの
　ピンチョス
・フローズン
　ピーチヨーグルト

熱量合計　740kcal
食塩相当量 2.8ｇ

＜令和４年　10 月～令和５年１月＞

昼食（月・水・金曜）

・八穀ごはん
・白菜と南関あげの味噌汁
・豚ヒレ肉の塩麹焼き
・白身魚の揚げ出し風
・野菜のごま酢和え
・青菜のおかかマヨがけ
・かぼちゃの柑橘煮
・わらび餅

熱量合計　660kcal
食塩相当量 2.9ｇ

昼食（火、木、土曜）

・麦ごはん
・つぶつぶコーンスープ
・鶏肉のカレーパン粉焼き
・鮭のきのこ
　クリームソース
・にんじんと紫キャベツの
　マリネ
・さつま芋の
　ラタトゥイユ風
・りんご入りグリルサラダ
・フルーツゼリー

熱量合計　685kcal
食塩相当量 2.8ｇ

夕食

・七分つきごはん
・ロールキャベツ鍋
・魚のごまみそ焼き
・里芋の変わりあんかけ
　茶碗蒸し
・花野菜のくるみ和え
・春菊のもちもち揚げ
・ミニトマトの
　はちみつレモンジュレ
・抹茶ミルクゼリー

熱量合計　720kcal
食塩相当量 3.0ｇ

(3)地域産業保健課

＜概　要＞

企業や地域の健康づくり支援として特定保健指導や健康診断後の事後指導、保険者と連携したデータヘルス事業や健康講話を行っている。また、団体の健康支援を目的に産業医と連携した産業保健サポートサービス事業も担っている。

＜動　向＞

コロナ禍の健康支援事業は3年目を迎え、対面型面談の要望も徐々に増加しコロナ禍以前の状況に戻りつつある印象を受ける。同時にICTを用いた講話や面談への要望もあり、講話では生活スタイルに合わせて視聴できる手軽さ、面談では1日の対応人数の増加が可能であることなど、感染予防以外のメリットがあることが要因と考えられる。今後も健康講話のオンデマンド配信やWeb面談などICTを用いた需要が見込まれる。

産業保健では令和4年度もメンタル不調や復職面談が多い傾向であった。コロナ濃厚接触による自宅待機や人員不足なども一因と思われる。また近年、少子高齢化による労働力不足や働き方改革の推進に伴い、従業員の健康に配慮する健康経営が注目されている。ハイリスクアプローチだけでなくポピュレーションアプローチを用いた団体全体の健康増進が望まれている。

＜成　果＞

ICTを用いた特定保健指導はZoomを用いて実施した。事前準備に時間を要し画像トラブルが数件みられたが、団体側の協力を得て恙無く終了することができた。環境面ではWeb面談や相談ブースの確保などの整備を関係各課と協力して実施した。マンパワー面でも他課とタスクシェアを行うことで、繁忙時期のマンパワー不足を補い初回面談数増加につながったと考える。

産業保健サポートサービス事業は50団体と契約を結んでいる。令和4年度は新たな団体と産業医契約、保健師契約を結び、産業医、保健師派遣回数ともに令和3年度と比較し43回増加（産業医31回、保健師12回）した。来所型産業医面談は減少したが、メンタル不調などで早急に医療機関受診が望ましいケースもあり、今後も時期を逃すことなく医療機関紹介を行い働く方の支援に力を入れたい。また令和4年度は顧客満足度向上を目的に産業保健サポート契約団体へ満足度や支援内容についてのアンケートを行った。産業保健サポートサービス事業の満足度は67%であったが、来所型面談等の支援内容の周知については団体により違いがあったため情報提供の必要性を感じた。

＜課　題＞

令和6年から始まる第4期特定保健指導に向けて支援方法やシステムの調整、検討が必須となる。また第4期はアウトカム評価が入り成果が求められるため、アプリなどのモニタリングツールの情報収集が重要と考える。

産業保健サポートサービス事業ではメンタル不調者、復職支援者等の増加により産業保健の需要が増している。対象者の支援時期を逃すことがないよう、今後も関連各課との連携を強化していきたい。

5. 事務部

(1)総務課

＜概　要＞

（人事係）　職員の人事、給与、労務管理、研修、福利厚生、賞罰、内規

（庶務係）　職員の出張、文書、宿日直、諸報告・届出、文書管理、医師確保・調整、各種行事、防火防災、熊本県健康管理協会事務局

＜動　向＞

・業務改善活動の継続

・省力化可能な業務の洗い出しと業務の効率化

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種対応

＜課　題＞

・安定した医師の確保並びに診療体制の整備

・働き方改革実現のためのDX推進

・健康経営推進のためのコミュニケーションの活性化と目標管理

・将来を担う人材の育成

・Withコロナ時代における新しい働き方の導入

・令和５年度Rプラン導入に伴うトライアル実施及び職員への周知

＜委員会＞

・防火・防災対策委員会（不定期）　防火防災管理の徹底、火災・地震などによる人的・物的災害の軽減

・安全衛生委員会（月１回）　労働安全衛生法に基づく事項の調査・審議

・個人情報保護委員会(不定期)　個人情報の保護・管理に関する事項の審議・検討

・教育研修推進委員会（不定期）　職員教育、研修を統括し、職員の資質の向上を図る

＜事務局＞

一般財団法人　熊本県健康管理協会

理事長　：　小山　和作

疾病予防、治療及び健康管理について各種活動を行い、県民の健康と福祉の増進に貢献することを目的として活動を行っている。

【主な事業内容】

(1) 保健衛生・福祉の分野で功績のあった者に対する顕彰事業（河津寅雄賞）

(2) 一般市民に対する健康相談事業（定期的な電話健康相談）

【事業報告】

令和４年 6月25日　第１回　評議員会（文書審議）

令和４年 6月27日　第１回　理事会（文書審議）

令和４年 9月8日　河津寅雄賞選考委員会

令和４年11月10日　理事会・評議員会／第26回河津寅雄賞授賞式

(2)会計課

＜概　要＞

会計係と用度施設係の２係から構成されている。

＜成　果＞

当センターの医療機器・設備等においては、計画的に機器の更新を進めている。令和４年度は、胸部Ｘ線撮影装置１台、乳房Ｘ線撮影装置１台、超音波診断装置２台（腹部用）、上部消化管ビデオスコープ３本、下部消化管ビデオスコープ２本などを更新した。

これらの整備により精度の高い検査が可能となった。

（委員会）

●購買委員会（令和４年 12 月１日）物品の購入にかかる機種選定理由及び要望事項等の審議・検討

(3)事業推進課

＜概　要＞

人間ドックや健康診断の営業活動を第一職域推進係・第二職域推進係・地域推進係の３係で行っている。

・第一職域推進係・・・共済組合・健康保険組合など加入事業所への推進業務

・第二職域推進係・・・協会けんぽ加入事業所への推進業務

・地域推進係・・・市町村の住民健診についての推進業務

令和４年度　健診･保健事業担当者研修会

当センターにおいて、健康診断を利用されている各種団体（共済組合・健保組合・協会けんぽ・国保・各市町村役場）の健康管理担当者の方々を対象として、今後の健康事業への取り組みの一助となりうる医療や保健事業に関する情報を提供した。また当センターの業務紹介や提案も行っている。令和４年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策としてオンライン配信(zoom)で実施した。

開催日時　　令和５年２月３日（金）

開催場所　　オンライン配信(zoom)

プログラム

Ⅰ　開会挨拶　　日本赤十字社熊本健康管理センター　所長　吉田 稔

Ⅱ　特別講演　　「子宮頸癌のワクチンと検診：キーワードはHPV」

熊本大学　名誉教授

医療法人 創起会 くまもと森都総合病院

特別顧問　片渕　秀隆 先生

座長　日本赤十字社熊本健康管理センター　所長　吉田　稔

Ⅲ　休憩・ストレッチ体操

日本赤十字社熊本健康管理センター

健康支援課　運動指導士　下川　詩季子

Ⅳ　情報提供　　「はじめての乳がん検診体験レポート」

日本赤十字社熊本健康管理センター

放射線課　診療放射線技師　松永　真理子

「各団体における婦人科検診の補助制度について」

日本赤十字社熊本健康管理センター

事業推進課　第一職域推進係長　若木　陽子

Ⅴ　事業紹介　　今年度の取り組み・次年度に向けての取り組み

日本赤十字社熊本健康管理センター　事務副部長　島田　雅美

Ⅵ　閉会挨拶　　日本赤十字社熊本健康管理センター　事務部長　嶋田　真二

(4)業務管理課

＜概　要＞

（人間ドック管理係）

人間ドック受診者の受付・案内、検査変更時の対応、料金の説明、宿泊案内等、その他人間ドック管理業務全般。

（外来管理係）

人間ドック・各種健康診断後の再検査対象者への案内および予約、受付・会計、保険請求業務等、医療事務全般。

上記２係において安心して当センターを受診していただけるよう丁寧な対応と受診者に寄り添った温かい対応を心がけ、各課と連携し受診者サービス向上と業務改善に取り組んでいる。

＜動　向＞

人間ドックでは、前年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり受診者数が減少傾向にあったが、ワクチン接種等の感染症対策や前年度までの受診控えにより、今年度は増加傾向となった。

また、4 階人間ドック受付・１階保険診療外来受付カウンターにはアルコール消毒液を設置のほか、令和４年度は固定式アクリルパーテーションを新設して感染症対策の一環としている。受診するコース・検査内容によって案内時間を分け、別階の待合フロアへご案内して混雑回避を図る対策は継続している。

外来診療では、がんよろず相談室を設置し、センターでの健診・人間ドック受診履歴がある方に向けたセカンドオピニオンの場として専門医が相談に応じている。

＜成　果＞

・1 日人間ドック

１日人間ドック受診者数は、26,525 人（男性 14,162 人、女性 12,363 人）、前年比 195 人の増加であった。新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えからの回復傾向にあり、全体では過去 10 年において二番目に多い実績となった。

・2 日人間ドック

２日人間ドック受診者は、3,709 人（男性 2,701 人、女性 1,008 人）、前年比 21 人の微減であった。ここ数年減少傾向が続いていたが、新型コロナウイルス感染症に関していえば、ワクチン接種の普及により、受診控えの傾向には歯止めがかかったものと思われる。

・外来事業

外来受診者は、5,674 人（初診 309 人、再診　5,363 人、その他 2 人）、前年比 219 人の減少であった。新型コロナウイルス感染症の受診控えは回復してきたが、症状が安定した患者については近医の医療機関へ積極的に紹介しており前年度より受診者の減少となっている。

＜課　題＞

・感染症対策も兼ねた新たな受付方法の検討

・身体の不自由な方が更に安心して受診できる体制作り

・日本語話者以外の方への柔軟な対応

（委員会）

●人間ドック連絡会議（月１回）

●人間ドック流れ部会（不定期）

●人間ドック事業検討委員会（不定期）

●保険診療委員会（不定期）

(5)健診管理課

＜概　要＞

健診管理係と車輌管理係の２係で構成され、健康診断を安心して受診していただけるようサービス向上、環境整備に取り組んでいる。

・健診管理係・・・施設内・施設外健診における受診者の受付、案内及び会場運営等の健康診断管理業務全般

・車輌管理係・・・健診車輌運転業務、健診車輌および公用車の整備・安全管理業務

＜動　向・成　果＞

健診事業の動向および健診受診者数の実績については30～35ページ参照。

＜課　題＞

今後、多く方に受診いただけるよう、待ち時間の改善、受診者サービスにおける会場内の環境整備、スタッフの接遇教育等を推進し、毎年受診したいと思っていただける環境を整える。

また、施設外健診において ICT※リモートデスクトップを導入し業務の効率化及びスタッフの処遇改善を図るよう、各課と連携し令和５年度導入開始に向け準備を行う。

※リモートデスクトップ・・・施設内健診システムの遠隔操作による健診受付

(6)総合予約管理課

＜概　要＞

総合予約管理課は人間ドック予約係と健診予約係の２係で構成されている。
主に人間ドック、施設内・施設外健康診断の予約日程調整、資料発送、電話による予約・お問い合わせ対応等の業務を行っている。

＜動　向＞

市町村や企業からの人間ドック・健康診断の予約申込み名簿は例年２月～6 月の間に年度内の 8～9 割近くが届き令和４年度も前年度並みの申し込みがあった。

7 月と 12 月は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、予約の日程変更やキャンセルが相次ぎ、予約枠に対して受診者数が大きく下回る状況が続いたため、日程変更者の受入れのための開所日の追加やキャンセルを見越して予約調整を行うことで受診者数が減少しないよう対応した。

10 月には共済組合法等の一部が改正され、国・自治体等で勤務する短時間労働者に対して、共済組合の短期給付が適用されることとなり、人間ドックに 343 名の追加申込みがあった。

令和５年３月には健康診断の日程保留の方へショートメールで受診勧奨を行った。

＜成　果＞

令和４年度も新型コロナウイルス感染症の拡大により、予約調整には苦慮したがワクチン接種の浸透、入館時の検温及び手指消毒、マスク着用など感染防止対策を徹底し、安心して受診していただける環境を整えたこともあり、年間予約数は人間ドック・健康診断とも新型コロナウイルス感染症発生前と同程度の実績を達成した。

その他、受付時間の細分化・時間帯毎の予約人数制限により、当日の受付や健診現場の混雑解消及び受診者の待ち時間減少など開始後３年でほぼ定着し顕著な効果が見られるようになった。

＜課　題＞

・人間ドック各コースの予約枠数について、お客様のニーズが変化していることもあり、現在は予約状況を注視しながら枠数の調整を行っている。そのため適正枠数を見直して効率的な予約管理を目指す。
・胃内視鏡や全大腸内視鏡検査の希望者が多いが空きが少ない状況であるため予約調整に苦慮している。受入数を増やすことは機材管理上難しいため、運用の変更又はキャンセル対策などを関係部署と検討する。
・令和４年に導入した自動封入封かん機の活用範囲を広げて、資料発送業務の効率化を図る。
・インターネット予約の導入準備を進めており令和 5 年度中に運用を開始し、利用者増及びサービス向上を図る。

(7)情報管理課

＜概　要＞

情報管理課は結果管理係とシステム管理係の2係で構成されている。

（結果管理係）　人間ドック後日結果票作成・発送、施設内・外の健康診断結果の入力、結果票作成･発送、健診等結果電子データ作成･発送、人間ドック・健診結果の再発行、画像ＣＤの発送等を行っている。

（システム管理係）コンピュータシステムの導入・開発･運用、コンピュータシステムに関するハードウェア・ソフトウェアの運用、整備及び保守・管理などを行なっている。
現在、業務におけるインターネットの利用が必須となっているが、個人情報の流出事例や医療機関に対するサイバー攻撃の増加等、情報に対する脅威も増大していることから、情報セキュリティに関する職員の教育、対策等を行なっている。

＜動　向＞

1）システム関連

令和４年４月	封入封かん機新規導入・稼動開始
令和４年９月	施設外リモート受付システム試行運用開始
令和５年３月	IT 統合管理ソフトウェア導入
	全衛連ストレスチェックシステムサーバー更新
	業務系システムネットワーク機器更新

2）統計・実績報告

令和４年４月	地域保健・健康増進事業報告
令和４年４月	日本赤十字社　医療施設等事業概要調査
令和４年６月	全国労働衛生団体連合会　会員機関実勢調査
令和４年６月	予防医学事業中央会　健診各種調査

(8)総合企画課

＜概　要＞

第一企画係、第二企画係の２係で構成され、主にセンター全体の事業調整や新規事業の企画立案、研究会の事務局、外部からの調査･研究依頼の受入窓口、広報活動業務を行っている。

＜動　向・成　果＞

①事業調整

1）令和５年度重点事項の作成

事務部長、事務部８課長、健康支援課長で構成される管理部門会議を中心に、令和４年度重点事項の進捗確認と令和５年度重点事項を事業毎に検討・作成し、周知を図った。

2）各事業検討委員会の運営

人間ドック、健康診断、健康支援の３事業において各事業の効率的かつ適正な運営を図るため、管理部門会議の諮問機関として各事業検討委員会を設置し運営している。

各事業検討委員会では、事業全般の運営、現状把握及び評価、事業の整備及び体制、検査項目や料金などについて審議する。

3）新型コロナウイルスワクチン職域接種の実施

新型コロナウイルスワクチン職域接種について、外部との調整や接種体制の整備などを行い、令和４年５月に５日間実施した。

接種実績：419 件

②研究会事務局

【赤十字健康管理事業研究会】

赤十字の医療施設の健診事業関係者が一堂に会し、日本赤十字社が行う健康管理事業は今後どのようにあるべきかを考え、健康管理事業の現状と未来を探求することを目的としている。

８月に成田赤十字病院の担当で第 27 回赤十字健康管理事業研究会を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により現地での開催が難しく昨年度に引き続きオンライン開催となった。

会長：吉田 稔（令和２年４月～）

事務局：日本赤十字社熊本健康管理センター総合企画課内

施設会員数：58 施設

≪事業内容≫

・研究会の開催

・会員間の情報交換と連絡

・その他目的達成に必要な事業

≪事業報告≫

月　日	事　業　内　容	開　催　場　所
4 月	理事会	文書審議
8 月 26 日	第 27 回赤十字健康管理事業研究会	オンライン開催
2 月 8 日	運営委員会	オンライン開催

【九州沖縄健診施設研究会】

九州・沖縄地域の健診施設 29 施設で構成されており、健診を始めとした予防医学に関する研究を推進するとともに、会員相互の交流を通して広く意見交換を行い、健診施設の質向上を図ることによって予防医学の発展に貢献することを目的としている。

九州予防医学研究会として活動していたが、令和 3 年 4 月から九州沖縄健診施設研究会に改称し、7 施設の幹事施設を中心に運営を行っている。令和 3 年度から 2 年間は当センターが代表幹事施設として事務局を担当している。

第 24 回九州沖縄健診施設研究会は、第 7 回日本人間ドック健診協会 九州健診経営研究会と合同開催となり、熊本城ホール 大会議室において集合型で開催し、日頃から予防医学に従事している医師・保健師・事務職等、115 名の参加があり活発な意見交換が行われた。

第 24 回　九州沖縄健診施設研究会

第 7 回　日本人間ドック健診協会　九州健診経営研究会

「One Kyushu Okinawa　～原点を知り、次世代へ繋ぐ～」

会　　期 ： 令和 5 年 2 月 25 日（土）～26 日（日）
大 会 長 ： 吉田 稔
（九州沖縄健診施設研究会代表幹事施設長/日本赤十字社熊本健康管理センター所長）
会　　場 ： 熊本城ホール　3 階　大会議室 A4（熊本市中央区桜町 3-40）
主　　催 ： 九州沖縄健診施設研究会
特定非営利活動法人　日本人間ドック健診協会
共　　催 ： 公益財団法人　日本人間ドック学会

代表幹事施設長：吉田 稔（令和 3 年 4 月～）

施設会員：29 施設　　賛助会員：4 団体

≪事業内容≫

・健診施設の質向上に資する研究大会（もしくは会員集会）やセミナー等の開催
・健診を始めとした予防医学に関する調査研究
・関係諸学会等との連絡及び協力活動
・会員相互の親睦、交流の推進
・その他目的に資する事業の開催

≪事業報告≫

月　日	事　業　内　容	開　催　場　所
5 月 24 日	第 1 回幹事施設会	オンライン開催
7 月 5 日	第 2 回幹事施設会	オンライン開催
9 月 14 日	第 3 回幹事施設会	オンライン開催
11 月 26 日	第 4 回幹事施設会	オンライン開催
2 月 16 日	第 5 回幹事施設会	オンライン開催
2 月 25 日・26 日	総会・第 24 回九州沖縄健診施設研究会ならびに 第 7 回日本人間ドック健診協会 九州健診経営研究会	熊本城ホール 大会議室・中会議室

③調査研究

研究課題	研究責任者	研究協力期間
・気流閉塞と労働生産性低下（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｨｰｽﾞﾑ）および病欠との関連	熊本大学大学院生命科学研究部 生体情報解析学講座 教授 大森　久光	令和 4 年 4 月 ～ 令和 4 年 12 月
・新型コロナウイルス感染症前後の生活習慣および骨密度の変化に関する研究	日本赤十字社熊本健康管理センター 診療部副部長　窪田　健一 熊本大学大学院生命科学研究部 生体情報解析学講座 教授 大森　久光	令和 4 年 4 月 ～ 令和 4 年 12 月
・フレイル・ロコモティブシンドローム予防と介護保険抑制に関する研究	日本赤十字社熊本健康管理センター 診療部副部長　窪田　健一 熊本大学大学院生命科学研究部 生体情報解析学講座 教授 大森　久光	令和 4 年 4 月 ～ 令和 4 年 12 月
・人間ドックにおける緑内障早期発見と受診率向上のためのプログラムに関する研究	日本赤十字社熊本健康管理センター 診療部副部長　窪田　健一 熊本大学大学院生命科学研究部 生体情報解析学講座 教授 大森　久光	令和 4 年 4 月 ～ 令和 4 年 12 月

④広報活動

対外的広報活動として、機関誌「ハイ健康です」を年３回発行。また、ホームページに加え、Facebook、YouTube による情報発信を行なっている。そのほか、事業実績報告書・各種チラシや各種パンフレットの作成をしている。テレビ、新聞、情報誌などのメディア取材依頼及び原稿依頼に関しては窓口として随時対応している。

1） 広報作業部会

各課から部会員を選任し、定期的な部会の開催を行うとともに、事業実績報告書や機関誌「ハイ健康です」の編集、Facebook 配信においては掲載内容の検討や記事を作成している。

2）広報誌等の発行

1.事業実績報告書の発行

令和 3 年度事業実績報告書を作成し、関係機関へ配布及びホームページへ掲載している。また、各検査データについてもホームページに掲載している。

2.機関誌「ハイ健康です」の発行

年３回定期的に発行し各行事、事業内容の紹介、健康に関する情報等を掲載している。なお、本年度において、ペーパーレス化の一環で発行部数を削減するとともに、ホームページに電子データを掲載している。

・大 き さ　　A4 判
・ページ数　　8 ページ
・発行部数　　第 156 号　3,000 部　　令和４年５月１日発行
　　第 157 号　3,000 部　　令和４年９月１日発行
　　第 158 号　3,000 部　　令和５年１月１日発行
・配 布 先　　人間ドック受診者（希望者のみ）、赤十字関係、事業所、市町村、共済組合、健康保険組合、優友クラブ会員、人間ドック・予防医学事業関連施設　等

3）イベント活動

赤十字フェスタ in イオンモール熊本

本フェスタは昨今の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、過去２年は開催を中止していた。今回は、大人数での集合や接触スタイルを前提とした従来型ではなく、大型商業施設を会場とした展示型イベントに開催方法を変更することで、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した開催とした。

日　時：　令和４年 11 月５日（土）　　10：00～16：00
目　的：　日赤熊本４施設合同で開催し、赤十字活動についてより理解を深め、身近に感じていただくこと。
場　所：　イオンモール熊本　１階　イベントスクエア、きらきらタワー入口付近・駐車場
（日本赤十字社熊本県部、熊本県赤十字血液センター、熊本赤十字病院、日本赤十字社熊本健康管理センター）
参加者：　約 1,000 人

【イベント内容】

◆相談コーナー

栄養相談・運動相談など

◆展示コーナー

模擬血液製剤・血液供給車

紹介パネル

ドクターカーNEO・胃部 X 線検診車・救護車両

◆体験エリア

子ども用ナース服・救護服試着

心肺蘇生法体験

体組成測定

献血アプリ登録ブース

缶バッチ作成

巨大ハートラちゃんとの写真撮影スポット

4）ホームページの全面リニューアル

令和５年１月、当センターホームページをより快適にご覧いただけるようスマートフォンやタブレット端末などの使用環境に応じて表示を最適化するレスポンシブデザインに刷新した。

また、新たに「年代・性別・普段の生活で気になること」を入力いただくことで、おすすめのオプション検査を提案する「おすすめオプションサーチ」機能を追加した。

⑤その他

1）熊本県 SDGs 登録制度への登録

「脱プラスチック化」、「事業継続計画（※BCP）の策定および訓練の実施」、「ユニバーサルデザインに配慮した環境整備」を令和６年度までの SDGs に関する重点的な取組み及び指標とし、SDGs 事業者登録を熊本県に申請した。令和４年９月に第３期登録事業者として決定通知が交付されるとともに、職員の意識向上を図るため、SDGs バッジを作成し主任以上に配布した。

※BCP とは、災害などの緊急事態における、企業や団体の事業継続計画のこと。

その他活動

1. 研究学会発表等一覧

月　日	学 会 名(開催地)	発　表　演　題	発 表 者
9 月 2 日～3 日	第 63 回日本人間ドック学会学術大会（千葉市）	人間ドックにおいて骨密度検査が推奨される群の抽出に関する検討	窪田　健一
9 月 12 日～30 日	第 63 回日本人間ドック学会学術大会（WEB）	「お客様の声」から見えてきた超音波検査の課題	大野　奈緒
10 月 2 日	日本超音波医学会第 32 回九州地方会学術集会（WEB）	腹部超音波検診において SMI が診断に有用であった 2 症例	迫　宣之
10 月 14 日～15 日	2022 年度 日本産業衛生学会九州地方会学会（大分市）	HPV 検査受診行動に影響する因子の検討	宮崎　まゆ子
12 月 2 日～3 日	第 114 回日本消化器内視鏡学会（熊本市）	約 10 年間の経過追跡が可能であった胃低腺型胃癌の一例	宮山　祐美子

2. 論文・著書

論文名	掲載誌	著者
Assessment of exposure and DNA damage from second-hand smoke using potential biomarker in urine: cigarettes and heated tobacco products	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition Published online:18 March2023	Yuya Kawasaki, Yun-Shan Li, Yuko Ootsuyama, Koichi Fujisawa, Hisamitsu Omori, Ayumi Onoue, Kenichi Kubota, Toshimi Yoshino, Yoshio Nonami, Minoru Yoshida, Hiroshi Yamato, Kazuaki Kawai

3. 職員研修

月　日	研　修　会　名
4月1日～3月31日	ハラスメント・個人情報保護に関する研修会（新規採用者）
4月1日	日赤熊本新規採用職員研修会（病院）
4月4日	新規採用職員研修会（5Fホール）
4月7日～30日	接遇・マナー（マスク着用時のマナー）に関する研修会（WEB配信）
5月18日～31日	接遇・マナー（クッション言葉）に関する研修会（WEB配信）
6月13日～7月31日	接遇・マナー（間違い言葉と模範解答）に関する研修会（WEB配信）
10月12日～12月31日	クレーム対応に関する研修会（WEB配信）
1月10日～3月24日	感染管理職員全体研修会（実技・手指衛生/WEB配信）
1月17日～2月18日	インシデントに関する研修会（WEB配信）

4. 研修･見学等受入状況

（9 件　40 人）

月　日	団　体　名	内　容	人数
5月9日～7月29日	熊本大学医学部保健学科 放射線技術科学専攻4年次生	撮影技術(X線・MRI・超音波)、 その他（患者さんへの対応、他の医療関係者との関係等）	10
8月24日・26日	日本赤十字広島看護大学	災害看護学実習	2
10月4日～5日	熊本保健科学大学保健科学部看護学科 4学次生	公衆衛生看護実習	4
10月31日～1月13日	熊本保健科学大学 医学検査学科 3学次生	臨地実習	6
1月13日	社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院 予防医療センター	施設見学	4
2月14～15日	一般社団法人大学コンソーシアム熊本	インターンシップ	2
2月24日	社会医療法人財団天心堂健診・増進センター	施設見学	5
3月9日	公益財団法人長崎県健康事業団	施設見学	4
3月10日	医療法人徳洲会湘南鎌倉総合病院	施設見学	3

＜検査＞

検査データ集計について

検査データ集計結果については、当センターのホームページ上に公開いたしますので、閲覧ならびにダウンロードにてご利用いただきますようお願い申し上げます。

日本赤十字社熊本健康管理センターホームページ（URL）

https://www.kenkan.gr.jp　　概要→実績報告

令和４年度 事業実績報告書

発行　日本赤十字社熊本健康管理センター
所　長　　吉田　稔
〒861-8528
熊本市東区長嶺南二丁目１－１
TEL　　096－384－3100（代表）
FAX　　096－387－8278
E-mail　kenkan-info@kumamoto-kkc.jrc.or.jp
URL　　https://www.kenkan.gr.jp/

令和５年６月